

第 1 3 期 総 会 資 料

目 次

1	2013年度	事業報告	1
	第1部	事業概要	1
		1. 本部	1
		2. 委員会	1
		3. 部会	4
		4. 研究会	7
		5. 支部	13
	第2部	会計報告及び会計監査報告	28
2	2014年度	事業計画(案)	32
		1. 本部・計画	32
		2. 委員会・計画	33
		3. 部会・計画	34
		4. 研究会・計画	35
		5. 支部・計画	38
3	2014年度	予算(案)	45
4	2014年度	役員改選	46



特定非営利活動法人
日本システム監査人協会

第1部 事業概要

1. 本部

1. 1. 全般概要

(1) 会員の状況

- 1) 正会員・個人・・・・・・・・・・・・ 793名
- 2) 正会員・団体・・・・・・・・・・・・ 31社 (合計 **824正会員**／2013年12月末現在)

2013年度は、毎月の月例研究会開催、支部活動の活性化、システム監査活性化プロジェクト等、協会を挙げて会員増強策につとめた。会費未納による除名者は大幅に減少したものの、定年退職などによる退会者が増加し、上記のような会員の状況になった。地方会員の組織として北海道・東北・中部・北信越・近畿・中四国・九州に7支部がある。東京都中央区に本部の事務所を置いている。

(2) 理事会の活動状況

開催日 1/10, 2/07, 3/14, 4/11, 5/09, 6/13, 7/11, 9/12, 10/10, 11/14, 12/12

理事会は、当協会の活動の原点であり、活動の諸案件が毎回活発に議論され、審議・決定されてきた。その議事録は、会員メーリング・リストで報告し、会報で会員用に掲載したとおりである。

(3) 事務局

事務局(仲事務局長、斎藤(由)理事)は、入退会に関わる事務処理、会員からの問い合わせ対応、会員管理システム及びホームページの改善等に取り組んだ。協会ホームページからログインできる「会員サイト」https://www.saaj.or.jp/members_site/KaiinStartでは、会員が、会費をいつ支払ったのかを確認できるように、また退職や人事異動があっても、新しいメールアドレスへ容易に訂正ができるようにするなど、会員サービスに資することを目標に改修を行った。また、昨年引き続きご寄附のお願いを実施し、100名を超える寄附者からご寄附をいただいた。役員全員が協力して、会費未納者への電話による状況確認とともに、会費お支払いをお願いする作業を行った。定款および会員規程に則って、1年を超える会費未納の事由による会員除名の事務処理を行った。

2. 委員会

＜目次

2. 1. システム監査活性化プロジェクト

(1) システム監査活性化プロジェクト

2012年度に取り組んだ会員増強プロジェクトは、会員数の減少に歯止めをかけ、当協会の財政基盤の安定に少なからず貢献することができた。2013年度、その会員増強プロジェクトを引き継ぐ形で活動を行ったのが、システム監査活性化プロジェクト(通称、活性化PT)である。

当協会の設立理念に戻って、システム監査の普及に貢献する(システム監査を活性化させる)施策を策定・実施することで、当協会の活性化を図って存在意義を向上させ、会員の皆様にメリットを実感していただき、結果として当協会の会員拡大に貢献することを目的にプロジェクトを進めた。小野副会長を主査に、各研究会、部会、委員会、担当の代表者をメンバーにプロジェクトチームを編成し、月1回プロジェクト会議を開催し意見交換を行うとともに、研究会等ごとに活性化施策の策定と実施を精力的に行ってきた。主な施策として、次のようなことを行った。

- 1) 会報を通じた活性化につなげる情報の発信
- 2) 月例研究会の案内先をシステム監査学会などの関連団体にも拡大し参加者を増大
- 3) システム監査に関する相談に対応するワークショップ支援サービス(WSS)の試行
- 4) CSAの方たちに対する各種機会をとらえたアプローチ
- 5) システム監査の実施に係るアンケート調査の検討;次年度の実施を目指す。
- 6) 活性化についての提案募集(個人会員、組織)
 - ・4人の個人会員の方から貴重な提案をいただいた。

- ・ 4つの組織（研究会等）から具体的な施策提案をいただき、そのうちの2件について実現すべく具体的な取組みを進めている（以下の事項）。
- 7) 研究会・委員会等合同研究発表会の開催；総会内で開催予定
- 8) システム監査啓発のための小冊子の作成；総会での配布を手始めに広範な配布を予定

2. 2. 認定委員会

>目次

(1) 公認システム監査人、システム監査人補の、認定登録の状況

1 2年目の公認システム監査人及びシステム監査人補の認定状況は以下のとおりである。

- 1) 公認システム監査人は、春期10名、秋期6名で年度16名
- 2) システム監査人補は、春期4名、秋期5名で年度9名、年度の合計25名。

この結果、累計では、次項の失効者を引き、公認システム監査人が353名、システム監査人補が116名、あわせて469名となる。申請者数は現状維持の状況となっている。

面接業務は、東京地区3回、中部地区1回で実施した。1組2名で原則土曜日に実施する面接には、名古屋では支部長の応援を得た。

(2) 公認システム監査人、システム監査人補の、認定更新の状況

2004年度、2007年度、2009年度、2010年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の更新状況は、公認システム監査人の失効者12名、システム監査人補の失効者24名となった。失効者数は例年より低く抑えられ、その結果、前記(1)の記載のと通りの認定資格者総数となっている。

2. 3. CSA利用推進グループ

>目次

(1) 活動の概要

- 1) CSA利用推進の取組みは2013年度で8年目となった。2013年度は、CSA・ASAのFace to Faceの相互研鑽、情報共有、議論の場としてCSAフォーラムを年4回開催し通算で第20回目となった。
- 2) CSAフォーラムは、CSA（ASA含む）百数十名の事前登録者を対象に、第17回を4月、第18回を7月、第19回を9月、第20回を11月に開催した。
- 3) 毎回20名前後の参加者が集まり、講師による実践的なテーマ報告と時間を掛けた質疑応答による参加者との意見交換により、有益な場の提供とFace to Faceの交流が進んだ。
- 4) 第1回CSA・ASA全体交流会を盛大に開催した！
CSA・ASA継続教育が行われた6月15日に、CSA・ASAの方々を対象に、CSA・ASAの交流と親睦を目的に、第1回CSA・ASA交流会を開催致した。総勢30名近い参加者により、最近の活動状況の説明や自己紹介タイム、名刺交換ゲームなどで、大いに盛り上がった。ここで知り合った方々とのFace to Faceの交流を今後とも続けていければと考えている。
- 5) CSAフォーラムと全体交流会以外の活動はほとんどできず、CSAパンフレット、CSA認定カード、CSAを入札条件に入れる依頼文の周知、CSA関連サイトの充実等について活動できなかった。CSA利用推進Gの担当理事やスタッフの体制強化が課題である。

(2) 活動の目的

- 1) 「CSAのプレゼンスを高める。CSAの社会的な評価や価値を高める。CSAの社会的な認知度を上げる。CSAになって良かったと思ってもらえる。CSA認定の付加価値を高める。CSAが社会的に認められ活動がしやすくなる」という活動目的を当初から掲げている。
- 2) 2013年度もCSAフォーラムの開催によりCSA同志の交流と輪を広げ、相互連携等を行うことを活動目標とした。

(3) CSAフォーラム活動

1) CSA認定取得者の相互研鑽、情報共有、Face to Faceの意見交換の場として、“CSAフォーラム”を開催。当初の事前登録者約100名に対して、“CSAフォーラム”の開催案内を発信して、各回とも20名前後の参加者を得ることができた。さらにCSA全員にも開催案内を流し、参加者の追加を諮った。今年開催内容は次の表の通りであった。

月日	開催回	テーマ	報告者	概要
4/13	第17回	医療情報関連資格取得の勧め	小倉道雄氏 (コンサル21代表)	・医療情報システム監査人、医療情報技師の詳しい説明 ・資格取得により医療知識を吸収し健康を守り、ビジネスにも繋がる可能性がある
7/29	第18回	6カ月で構築するPMS (プライバシーマーク)	斎藤由紀子氏 (JIPDEC プライバシーマーク主任審査員)	・PMS構築と運営の勘所や課題、監査に求めることの説明 ・個人情報保護監査研究会で策定した標準的な規程、様式をサンプルとして紹介
9/24	第19回	IT-AuditのISO化とITガバナンスのJIS化の推進状況	力利則 (NECフィールドディング)、 基準研有志	・ISO化とJIS化についての推進状況を報告 ・IT-AuditのISO化に伴い、ITガバナンスのJIS化も推進中
11/21	第20回	システム監査に関わる人材のキャリアデザインと人材育成	花田経子氏 (新島学園短期大学)	・システム監査人がどのように必要な知識技能を習得し、キャリアを形成してきたのか ・システム監査人を“キャリアデザイン”の視点での考察と人材育成についての議論

2. 4 教育研修委員会

>目次

特別認定講習実施機関（以下「講習実施機関」という）に委託している特別認定講習について、講習実施スケジュールの協会ホームページ掲載から、講習実施結果の評価・修了認定・修了証発行までの一連の活動を継続している。なお、講習実施機関は前年通り2社。

(1) 特別認定講習の概要

「公認システム監査人(Certified Systems Auditor)」および「システム監査人補(Associate Systems Auditor)」の認定制度において、システム監査技術者試験と関連性のある資格の所有者については、特別認定制度が定める講習を履修し一定以上の成績を修めることにより、システム監査技術者試験の合格者と同等に取り扱われる。

詳細：公認システム監査人定制度 (<http://www.saa-j.or.jp/csa/shosai.pdf>)

(2) 特別認定講習の実施状況

(注) 受講修了者数は延べ人数（1人複数コース受講）

講習コース	実施回数	受講修了者数	2012年度実績	
	実施場所：実施月		実施回数	修了者数
① 論文・プレゼンテーションコース（1日コース）	5回	4名	2回	2名
	東京4回：1、2(2)、8月 大阪1回：2月			
② システム監査に関する知識コース（2日コース）	8回	12名	3回	3名
	東京6回：1、2、3、5、10、11月 大阪2回：11、12月			
③ 情報システムに関する知識コース（2日コース）	3回	5名	0回	0名
	東京3回：前年12月、1、7月 大阪0回			
計	16回	21名	5回	5名

・実施回数および修了者の2012年度比増加について、今年度は公認会計士の受講が半数近くを占める状況があった。

(3) 運営管理状況

- ・実施された各講習について、講習実施機関の試験問題・採点要領・採点結果に問題はなく、いずれも修了証発行につながった。
(講習実施機関では成績未達者への再テストが実施されている)
- ・特別認定講習による公認システム監査人(CSA)の認定者増加に向け、協会ホームページや会報を通じて特別認定講習の認知度アップおよび講習開催状況の周知を図っている。

3. 部会

[>目次](#)

3. 1. 会報

「日本システム監査人協会会報」は、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場として、会報部会(主査 仲 厚吉)が編集し発行している。会報は、電子版を月次発行し、読者がダウンロードして印刷できるようにしている。また、会員やシステム監査人が、ネット上で意見交換できる仕掛けも用意している。

(1) 概要

会報部会では、経費削減、及び電子書籍の普及に伴う利便性向上を実現するため、会報をすべて電子版発行に切り替えた。会報公開サイト (<http://skansanin.com/saaj/>) は、外部からのコメント投稿を歓迎し、会員以外との開かれた交流につとめている。このサイトはスマホでも閲覧できるよう運用している。

会報編集委員は7人体制とし、会報の月次発行、投稿の呼びかけなどタイムリーな情報発信ができるように陣容を整え、読者の意見や、メッセージを集めている。会報のテーマについては、3か月にわたって、初めの号の会報編集委員が思うテーマを決めて、編集する運用を行っている。

会報は、特定刊行物として国立国会図書館へ納品され、一般の検索、閲覧に供されている。会報の記事には、匿名の「めだか」記事と、記名の投稿記事がある。「めだか」記事は、匿名投稿者の個人的な意見表明であり SAAJ の見解ではないことをうたっているため、誹謗中傷でないかぎり何でも投稿でき、外部へも思い切った発言を行うことができる。かたや、記名投稿記事は、会員番号、氏名、所属部会・研究会、支部をあきらかにしているわけで、会員やシステム監査人の履歴書に掲載する記録になりえるものである。

(2) 2013年に発行した会報の内容

システム監査人のコラム「めだか」は、会員やシステム監査人がどなたでも投稿できるように匿名(めだかネーム)を採用している。重複しないよう、これまでの投稿者が使用したネームを確認して投稿していただきたい。なお「めだか」の投稿者がほぼ限られた投稿者になっていることは課題である。記名投稿記事は、投稿者のシステム監査への考察や提言があげられている。

システム監査活性化プロジェクトの記事として、IT Audit の ISO 化・JIS 化推進、情報セキュリティ監査研究会、個人情報保護監査研究会の研究発表の連載を行った。

号・年月 編集委員	【めだか】 (めだかネーム)	記名投稿
No. 143 (2013年 2月号) 中山孝明	【システム監査人自身も頭の切替えが必要では (システム監査の普及促進)】 (広太雄志) 【システム監査の普及促進-会報への一考察】 (空心菜) 【十色・百様・千姿に向き合う付加価値 (システム監査の普及促進)】 (山の彼方) 【元旦1面トップ記事の監査対象 (システム監査の普及促進)】 (空遠幸)	【構築途上にあるシステムへの 監査が足りない(4)・・・腑】 会員番号 1143 中山孝明
No. 144 (2013年 3月号)	【システム監査人の足下は大丈夫か】 (広太雄志) 【Cyber-PhysicalSystems】 (逍遥庵)	【クラウド普及におけるシステム 監査人の使命】 会員番号 0685 小坂周一郎

桜井由美子	【四半世紀の変遷、監査も変化したか？ （システム監査の普及促進）】（山の彼方） 【システム監査の普及促進 —デスマーチを憂いて】（空心菜）	【時事論評：サイバー侍ジャパン】 会員番号 0707 神尾 博 【構築途上にあるシステムへの監 査が足りない(5)(結)・・自信】 会員番号 1143 中山孝明
No. 145 （2013年 4月号） 仲 厚吉	【ピンク本から学ぶ停滞打破(システム監査の普 及促進)】（山の彼方） 【当事者の説明責任遂行に信頼性を付与 （システム監査の普及促進）】（広太雄志） 【体幹を鍛えよう】（いつかエトワール）	【システム監査活性化プロジェクト】 会員番号 6027 小野修一 【2013年度の月例研究会につい て】 会員番号 0148 木村裕一
No. 146 （2013年 5月号） 藤澤 博	【将を射んと欲すれば・・・(システム監査活性化 への提言)】（広太雄志） 【先手、先制、機先（システム監査活性化への 提言）】（山の彼方） 【システム監査の普及促進—デスマーチを憂い て・・・その2】（健康衛生）	【共通番号とシステム監査】 会員番号 0557 仲 厚吉
No. 147 （2013年 6月号） 藤野明夫	【「道」の活性化・・・(システム監査活性化へ の提言)】（山の彼方） 【監査人自身が社会的使命を明確に自覚する(シ ステム監査活性化への提言)】（広太雄志）	【システム監査の活性化】 会員番号 0557 仲 厚吉
No. 148 （2013年 7月号） 安部晃生	【システム監査と他の監査との関係・連携(シス テム監査活性化への提言)】（広太雄志） 【So What (システム監査活性化への提 言)】（山の彼方） 【内部監査において重み増すシステム監査—内 部監査人の立場からのシステム監査活性化】 （やじろべえ） 【システム監査の普及促進—デスマーチを憂い て・・・その3】（空心菜）	【システム監査の活性化・・その 2】 会員番号 0557 仲 厚吉
No. 149 （2013年 8月号） 越野雅晴	【システム監査の使いみち(ガバナンス)】（空 心菜） 【業界用語や輪切りの駆逐】（山の彼方） 【「報告」目的が拡大された新COSO内部統制 フレームワーク(システム監査の使いみち)】 （広太雄志）	【システム監査の活性化(定款)】 会員番号 0557 仲 厚吉 時事論評 【ミリタリーITパラド ックス】 会員番号 0707 神尾 博
No. 150 （2013年 9月号） 桜井由美子	【システム監査の使いみち(マネジメント)】（空 心菜） 【東日本大震災の教訓とシステム監査(システ ム監査の使いみち)】（山の彼方） 【IRとシステム監査(システム監査の使いみ ち)】（広太雄志）	【システム監査の使いみち】 会員番号 0557 仲 厚吉
No. 151 （2013年 10月号） 仲 厚吉	【システム監査活性化の一考察～ジェロントー と生きがい就労に向けて】（健康衛生） 【「システムリスク監査」と言い換える(システ ム監査の使いみち)】（山の彼方） 【システム監査の使いみち】（広太雄志） 【パーソナルデータの利活用(システム監査の使 いみち)】（空心菜）	【システム監査の使いみち】 会員番号 0557 仲 厚吉
No. 152 （2013年 11月号） 中山孝明	【個人情報保護やプライバシー保護(システム 監査の未来)】（空心菜） 【組織内システム監査に答がある(システム監 査の未来)】（山の彼方） 【システム監査の監査としてIdentityの確立 (システム監査の未来：その1)】（広太雄志）	【システム監査の未来】 会員番号 0557 仲 厚吉 エッセイ【瓜子姫】 会員番号 0707 神尾 博

No. 153 (2013年 12月号) 藤澤 博	【(システム監査の未来)：人口の波】(空心菜) 【(システム監査の未来)：システム監査の脱皮】 (山の彼方) 【(システム監査の未来：監査の基盤としてのシ ステム監査の認知 (システム監査の未来：そ の2)】(広太雄志)	【アンパンマン (システム監査の 未来)】 会員番号 0557 仲 厚吉
No. 154 (2014年 1月号) 藤野明夫	【指摘ゼロのシステム監査】(拡張子) 【システム監査人にもっとも必要な資質は？ (システム監査の未来)】(山の彼方) 【「情報革命時代の知恵」として学ぶシステム監 査 (システム監査の未来：その3)】(広太 雄志) 【ストロマトライト】(空心菜)	【システム監査の深化のために 戦略は細部に宿る】～似て非な るものを峻別できるか?～ 会員番号 1566 田淵隆明

(3) 会報サイトへのアクセス状況

一昨年のアクセス状況(年間2000、9ヶ月で1500)から、昨年2013年は、3000アクセスという推移で、順調に会報サイトの利用者、訪問者が増えている。システム監査の会報で、訪問者が年間で50%も増加するというのは、記事内容の充実と、見せ方の工夫の成果だと考えられる。

(4) 2013年の会報アワード(めだか、記事、支部報告)

会報アワードは編集委員の選考によって下記のように決定した。通常総会において発表する。

「めだか」より1件、「記事」より1件、「支部報告」より2件を選出。

(5) 2013年の投稿論文

該当なし。

3. 2. 法人部会

>目次

(1) 法人正会員 31社(2013年末現在)

- 1) 入会：2社 (株式会社オンサイトテクノロジー、株式会社マネジメント総研)
- 2) 退会：1社

(2) 活動内容

- 1) 定例部会を、原則、月1回開催した。
- 2) システム監査活性化プロジェクトと連携し、種々検討・提案を行った。
 - ・企業・団体等のシステム監査の実施動向を把握すべく、アンケート調査を実施することとし、アンケート案の検討を進めた(作業は次年度に継続)。
 - ・システム監査活性化に向けた提言募集に対し、「システム監査啓発のための小冊子発行」を提案し採用された(作業は次年度に継続)。
 - ・会報のシステム監査活性化プロジェクトのコーナーに法人部会の取組みを掲載した。
- 3) 「自治体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、2013年度版として案内した。セミナー案内のDMを、全国都道府県、関東各都県の市以上、および東京都23特別区の自治体に送付した。
- 4) 千葉県香取市様から情報セキュリティセミナー開催の依頼をいただき、法人会員企業が講師になって、セミナーを実施した(2013/2/1実施、参加者約100名)。結果は会報に報告すると共に、ホームページに掲載した。
- 5) 法人会員企業増を目的に、経済産業省のシステム監査企業台帳登録企業向けに協会への入会案内を送付した(2013/1実施、105社宛送付)。
- 6) 「民間企業・団体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、当協会のWebサイトでの広報、FISA(情報システム・ユーザー会連盟)主催のシステム監査講演会(2013/10開催)での案内チラシの配布を行った。

- 7) 会員同士のシステム監査の普及・ビジネス化についての情報交換を行った。今年度は「クラウドサービス利用のための情報セキュリティマネジメントガイドライン」（経済産業省）をとり上げ、読合せ、情報・意見交換を行った。

4. 研究会

➤目次

4. 1. 月例研究会

月例研究会(木村裕一主査)は、システム監査に関連する、時代の動向を先取りした主題で講演会を設営し、2013年度は計画通り10回(2014年2月開催分を含む)開催。12月までの開催では、1061名(前年比142名増)、平均参加者数は117名(前年比15名増)の参加を頂いた。

(1) 開催報告

2013年度は、以下の通り年間10回の研究会を実施した。(会場:「機械振興会館 ホール」)

回	開催月日	2013年 月例研究会開催実績 テーマ/講師	参加者
180	4/24(水)	テーマ:「企業IT動向調査2013(2012年度調査)」 講師:社団法人日本情報システム・ユーザー協会(JUAS) 常務理事 浜田 達夫 氏	95名
181	5/21(火)	テーマ:『金融機関等コンピュータシステムの安全対策基準・解説書』及び『金融機関等におけるコンティンジェンシープラン策定のための手引書』の改訂に伴う追補版について 講師:財団法人 金融情報システムセンター 監査安全部 西村 敏信 部長 氏 鬼頭 克巳 総括主任研究員 氏 岡田 昌一主任研究員 氏	103名
182	6/17(月)	テーマ:個人情報影響評価PIAの要諦 PIAとシステム(情報セキュリティ)監査との関係 講師:公立大学法人首都大学東京 産業技術大学院大学 教授 瀬戸 洋一 氏	111名
183	7/24(水)	テーマ:「実演によるサイバー攻撃の仕組み解説」 講師:独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) 技術本部 セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー研究員 渡辺 貴仁 氏	153名
184	8/21(水)	テーマ:「クラウドサービス利用の実態と点検・監査のポイント」 講師:独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) 技術本部 セキュリティセンター情報セキュリティ技術ラボラトリー 普及グループ 研究員 河野(かわの) 省二 氏	134名
185	9/18(水)	テーマ:「システム監査の実践的な進め方 ～チェックポイントと実務上の留意点～」 講師:東洋大学 総合情報学部 教授 島田 裕次 氏	137名
186	10/22(火)	テーマ:「スマートフォンの アプリケーション・プライバシーポリシーを巡る動向」 講師:一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム 常務理事 寺田真治 氏 (株式会社オプト 中国・韓国事業推進室 プロジェクトマネージャ、 北京欧扶特信息科術有限公司 董事長、香港オプト 董事長)	100名
187	11/18(火)	テーマ:2013年版COSO内部統制フレームワークの概要 講師:有限責任監査法人 トーマツ エンタープライズリスクサービス シニアマネージャー 森谷 博之 氏	141名
188	11/28(火)	テーマ:「共通フレーム2013概要」(ソフトウェアライフサイクル プロセス SLCP - JCF2013) 講師:独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) ソフトウェア高信頼化センター 室谷 隆 氏	87名

回	開催月日	2013年 月例研究会開催実績 テーマ/講師	参加者
189	2014年 2/10(火)	テーマ：個人情報保護法改正の方向性 講師：慶應義塾大学 総合政策学部 教授 新保 史生 氏 博士 (法学)	—

- (2) 2013年度は年間10回(2014年2月開催を含む)開催した。
- (3) 2013年は、会員の参加費1000円を維持し、参加しやすいようにした。これは会員増強活動の一環でもある。またシステム監査学会ほか、関連諸団体に月例研究会の案内をお願いして、参加者の増加を図っている。会員外の希望者には、直接案内メールを送信することも始めた。
- (4) 参加者の内、当協会の会員以外の方の割合が約38%(前年比8%増)であった。当協会の月例研究会が、協会以外の方々からも引き続き注目され、今年も毎回多くの方々にご参加頂いた。
- (5) 月例研究会は非会員が出向いていただける機会であるので、会員増強に向け会員勧誘の案内を(予定のお知らせを兼ね)配布した。また研究会開催前の時間に協会活動のPRをスライドに実施した。
- (6) 講師の方の所属は、大学が3名、行政法人(IPA)が3名、諸団体が6名(監査法人、当協会を含む)であった。今年度は中央官庁からの出講はなかった。
- (7) 4月の月例研究会参加者にアンケート調査を実施し、開催テーマ選定、また、会場運営の参考にさせてもらった。また、開催日決定の案内を決定次第、会場で案内すると共に、決定次第ホームページ、メーリング・リストで速報することを徹底した。
- (8) 各支部へ資料とともに配付している録画ビデオは、各支部主催の研究会等でこれまで以上に積極的に活用されている。

4. 2. システム監査事例研究会

>目次

(1) 研究会メンバー : : 113名(2013年12月現在)

(2) 定例会開催

1) 定例会 毎月第一水曜日 18:30~20:30

12回開催 延べ出席者数 82名

2) 内容

- ・監査ノウハウ、セミナー運営ノウハウの整理と継承。
- ・協会活動活性化の一環としてのワークショップ支援サービス普及検討。

	開催月日	参加人数	内容
1	1月9日	8名	監査ノウハウ白熱教室(1)(BYODの是非)
2	2月6日	6名	第21回実務セミナーでの議論の振り返り
3	3月6日	7名	システム監査活性化のための意見交換
4	4月3日	8名	ワークショップ支援サービスの意見交換
5	5月8日	6名	監査ノウハウ白熱教室(2)(監査技術者への期待)
6	6月5日	8名	0社からのコラボ提案検討
7	7月3日	6名	ワークショップ支援サービス報告
8	8月7日	10名	システムドックセンターの検討
9	9月5日	8名	事例研の運営改善に関する意見交換
10	10月5日	3名	監査ノウハウの継承(1)(依頼者意向確認)
11	11月6日	5名	監査ノウハウの継承(2)(監査サービス受付)
12	12月17日	7名	年間活動報告

(3) システム監査サービス

一般社団法人からの監査サービスならびに有償監査の引き合いがあり、見積書を提出した。受託した場合、実施は2014年度。

(4) システム監査実務・実践セミナー

- ・本年は4日間コースを2回開催し、2日間コースを2回開催し、1996年から実践・実務セミナーは通算47回の開催実績となった。東北支部主催のセミナーは定員に満たず開催されなかった。
- ・実務セミナー4日間コースは、2002年から開始し通算22回目となり、公認システム監査人の教育制度の一環として定着してきている。

1) 第44回(第21回実務セミナー4日間コース)

- ・日時:2013年2月2・3日、2月9・10日
- ・場所:東京晴海 晴海グランドホテル
- ・参加者:受講生7名、講師3名

2) 第45回(第24回実践セミナー2日間コース)

- ・日時:2013年5月3・4日
- ・場所:東京晴海 晴海グランドホテル
- ・参加者:受講生10名、講師2名

3) 第46回(第22回実務セミナー4日間コース)

- ・日時:2013年8月31・9月1日、9月14・15日
- ・場所:東京晴海 晴海グランドホテル
- ・参加者:受講生7名、講師3名

(5) 事例に学ぶ課題解決セミナー

定期的な開催が定着してきた。リピーターも多いことから、今後は新たな教材作成が課題となる。

1) 第9回事例に学ぶ課題解決セミナー(半日コース・簡易演習付)

- ・日時:2013年3月2日 13:00~17:00
- ・場所:晴海グランドホテル
- ・参加者:受講生15名、講師2名

2) 第10回事例に学ぶ課題解決セミナー(半日コース・簡易演習付)

- ・日時:2013年6月1日 13:00~17:00
- ・場所:晴海グランドホテルで
- ・参加者:受講生20名、講師2名

3) 第11回事例に学ぶ課題解決セミナー(半日コース・簡易演習付)

- ・日時:2013年9月7日 13:00~17:00
- ・場所:晴海グランドホテル
- ・参加者:受講生11名、講師2名

4) 第12回事例に学ぶ課題解決セミナー(半日コース・簡易演習付)

- ・日時:2013年12月7日 13:00~17:00
- ・場所:晴海グランドホテル
- ・参加者:受講生18名、講師2名

4. 3. 情報セキュリティ監査研究会

>目次

2013年度、当研究会は、当協会の活動の大きな柱である研究活動を魅力あるものにするために、会員各位にとって、また、外部の方にとって関心のある今日的な課題を研究テーマとして選定するよう心がけた。また、その活動を協会会報に毎月連載することにした。

(1) 研究テーマについて

情報セキュリティ監査研究会は、その名のとおりに、「情報セキュリティ監査の研究」を主たる活動にしている。しかしながら、近年のセキュリティ事故の多発やその影響の深刻さ、ビッグデータの普及や共通番号制度の議論のなかでやかましくなってきた個人情報の問題等に鑑み、監査以前に、これらの深刻なセキュリティ問題(個人情報保護の問題が厳密な意味でセキュリティの問題か、とい

う議論はあるが、とりあえずセキュリティに含めて考える)について、まずは、その問題の所在と本質の把握をすることに取り組んだ。

2013年度前半は、2012年度に引き続きスマホやソーシャルメディアの普及やビッグデータの利活用の進展でリスクが増してきた個人情報の問題を研究テーマとし、2012年3月発行、IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)「くらしと経済の基盤としてのITを考える研究会報告書 つながるITがもたらす豊かなくらしと経済 ～ ビッグデータの価値と信頼～」をテキストに、月例の定例研究会で検討した(以降、このテキストをテキストIと称す)。

2013年度後半は、PIA(プライバシー影響評価)との関連等で近年脚光を浴びている「プライバシー・バイ・デザイン」をとりあげ、現在継続中である。「プライバシー・バイ・デザイン」とは、カナダ・オンタリオ州の情報・プライバシー・コミッショナーであるアン・カブキアン博士が提唱するコンセプトである。「プライバシー・バイ・デザイン」は、その名の通り、設計段階からプライバシー保護を検討・実装するという考え方で、このような考慮をすれば事業者にとっても消費者にとってもポジティブサム(Win-Win)の関係をもたらすというものである。この考え方は、従来のプライバシー保護に対するマイナスのイメージ、すなわちプライバシー保護プロセスは単なるリスクに対する対応プロセスでしかなく、事業者にとっても個人情報を提供する消費者にとっても何ら付加価値を生むものではないといった認識を覆すものである。

テキストは、堀部政男／一般財団法人日本情報経済社会推進協会編、アン・カブキアン著、JIPDEC訳、「プライバシー・バイ・デザイン プライバシー情報を守るための世界的新潮流」、日経BP社、2012年10月を用いている(以降、このテキストをテキストIIと称す)。

(2) 協会会報への活動状況の掲載について

システム監査活性化プロジェクトの一環として、会報2013年5月号から始めた会報の活動状況報告記事「情報セキュリティ研究会だより」の毎月掲載も、2014年2月号で10回目となった。当協会の活動のアピールとしてどの程度の効果があったのかを把握したい。

(3) 新メンバー参加について

情報セキュリティ監査研究会は、2012年の秋以降の活性化プロジェクトによるキャンペーン効果で計3名の新メンバーを獲得することができた。ただ、新メンバーも含め、多忙な方が多く、月例会合に人数が揃わないのが難である。研究テーマの性格上、Face to Faceの議論が必須であり、できるだけ多くの方の参加が得られるよう、何らかの工夫が必要である。

(4) 2013年度研究会月例会合開催実績

(内容の詳細は、会報各号に掲載しているので参照されたい)

月日	開催会	参加	内容〔(「テキストI」及び「テキストII」については、(1)参照)〕
1月24日	第9回	5名	テキストI第7章「新サービス創出のための課題と取り組み」第3節「ビッグデータの開放と融合の促進」、第5節「ビッグデータ活用を支える信頼性・安全性」、付録D「国内におけるビッグデータ収集・利用の動向調査」、付録E「米国におけるビッグデータ市場動向」について検討。
2月21日	第10回	5名	
3月21日	第11回	5名	
4月25日	第12回	5名	
5月23日	第13回	3名	テキストIを踏まえつつ、ビッグデータにおいてコンプライアンス上本質的で、新しい問題と、その社会的影響等について検討。
6月26日	第14回	3名	今回から、新メンバーが加わったため、当研究会の現在の活動の趣旨及び会報への報告内容等の説明と議論を行った。
7月23日	第15回	5名	新テーマを「プライバシー・バイ・デザイン」に決定。テキストIIの第1章「いま求められるプライバシー保護」及び第2章「原典をひもとく—Privacy by Design」について検討。
8月20日	第16回	6名	
9月19日	第17回	4名	
10月31日	第18回	5名	
11月22日	第19回	3名	2014年度総会後の合同研究発表会で当研究会が「プライバシー・バイ・デザイン」をテーマに発表することを決定。発表内容を検討。
12月19日	第20回	4名	

4. 4. システム監査基準研究会

>目次

(1) 研究項目

SAAJシステム管理基準体系

(2) 活動項目

1) IT AuditのISO化支援 (ISO/IEC30120)

IT Audit の ISO 化の動きに対して、基準研メンバーにより原案作成を引き続き支援した。また以下の国際会議に参加した。

- ・2013年3月：オーストラリア会議（基準研からは都合がつかず未参加。システム監査学会から清水理事が参加）
- ・2013年8月：東京会議（基準研から力副会長、松枝副会長、松尾理事、清水理事が参加）
日本から提案していた「PDTR：30120」が投票の結果承認され、次のステップ（DTR）に向けて活動する方針が決定された。

2) ISO38500 (ITガバナンス) のJIS化支援

IT ガバナンスの国際基準である ISO38500:2008 の JIS 化作業に、力副会長が参画しており、基準研としても意見交換により支援した。

(3) 研究会の開催

定例研究会は原則月1回。ISO化に係る検討は随時開催した。

4. 5. 個人情報保護監査研究会

>目次

個人情報監査研究会（斎藤由紀子主査）は、中堅企業のための「個人情報保護マネジメントシステム実施ハンドブック（以下、PMS実施ハンドブック）」をもとに、2012年度に引き続きPマーク取得を計画している事業者を対象にセミナーを実施し、事業者からの質問や意見を元に「PMS実施ハンドブック」のブラッシュアップを図った。また、会報6月号より「PMS実施ハンドブック簡易版（抜粋版）」の連載を開始した。

(1) 2013年の活動状況

2013年の当研究会の取り組みは、以下のとおりである。

- 1) 「PMS実施ハンドブック」をもとに、Pマーク取得セミナーを実施した。
- 2) 「PMS実施ハンドブック簡易版（抜粋版）」の連載を開始した。
- 3) 「PMS実施ハンドブック」のご紹介セミナーを実施した。
- 4) 「PMS実施ハンドブック」の出版に向けて、出版会社との折衝を開始した。
- 5) 定例会は、今年も毎月実施することができた。定例会と月例研究会が重なった場合は、月例研究会開始前に時間を前倒しして、両立を図った。

(2) 2013年の定例研究会開催実績

月日	開催回	テーマ
1/23	第1回	Pマーク取得セミナーを実施し、質問や意見を「PMS実施ハンドブック」に反映
2/20	第2回	Pマーク取得セミナーを実施し、質問や意見を「PMS実施ハンドブック」に反映
3/29	第3回	「PMS実施ハンドブック」3.7.2.3 監査における評価について見直し
4/17	第4回	・会報5月号「PMS実施ハンドブック簡易版」公開 担当：斎藤由紀子 序章 はじめに ・「PMS実施ハンドブック簡易版」Web公開： 目次： http://www.saa.jp/saa/jpms6/600pmsMOKUJI.html ・「6か月で構築するPMS」セミナー：ホームページ掲載 http://www.saa.or.jp/shibu/kojin.html 料金9万円1名（1社3名以上割引あり） ・「情報システム開発の安全性」に関する監査チェックリスト」を追加策定 (PrivacyByDesign の考えを反映)

5/15	第5回	<ul style="list-style-type: none"> 会報6月号「PMS実施ハンドブック簡易版」公開 担当：柴田 幸一 第1章 プライバシーマーク認証取得計画 第2章 個人情報保護方針などの公表 第3章 計画
6/17	第6回	<ul style="list-style-type: none"> 会報7月号「PMS実施ハンドブック簡易版」公開 担当：仲 厚吉 第4章 個人情報の特定 第5章 法令、国が定める指針その他の規範 ・PIA(Privacy Impact Assessments) について 調査検討開始
7/24	第7回	<ul style="list-style-type: none"> 会報8月号「PMS実施ハンドブック簡易版」公開 担当：藤澤 博 第6章 リスクなどの認識、分析及び対策 第7章 緊急事態への準備 ・パーソナルデータ（ビッグデータ）利活用について 調査検討開始 ・29日第18回CSAフォーラム「6か月で構築するPMS」（講師：斎藤由紀子）
8/21	第8回	<ul style="list-style-type: none"> 会報9月号「PMS実施ハンドブック簡易版」公開 担当：斎藤由紀子 第8章 個人情報の取得、利用および提供に関する原則 第9章 本人から直接書面によって取得する場合の措置 ・「クラウドセキュリティガイドラインについて 調査検討開始
9/18	第9回	<ul style="list-style-type: none"> 会報10月号「PMS実施ハンドブック簡易版」公開 担当：柴田 幸一 第10章 直接書面以外で取得する場合の措置 第11章 利用に関する処置 第12章 提供・共同利用に関する措置
10/16	第10回	<ul style="list-style-type: none"> 会報11月号「PMS実施ハンドブック簡易版」公開 担当：仲 厚吉 第13章 適正管理（安全管理規程） 第14章 従業者の監督 第15章 委託先の監督 ・セキュリティとプライバシーの両方の安全性を成立することについて ・Pマーク審査の指摘着目点について
11/20	第11回	<ul style="list-style-type: none"> 会報12月号「PMS実施ハンドブック簡易版」公開 担当：斎藤由紀子 第16章 本人の権利 ・22日：日本セキュリティ・マネジメント学会 11月度「個人情報の保護研究会」セミナー（講師：斎藤由紀子） ・22日：「PMS実施ハンドブック」出版社と第1回打ち合わせ
12/18	第12回	<ul style="list-style-type: none"> 会報2014年1月号「PMS実施ハンドブック簡易版」公開 担当：藤澤 博 第17章 教育 第18章 文書の管理 第19章 苦情・相談対応 ・2013年度予算執行について（会報サイトに、PMS関連特集掲載予定） ・2014年度の活動テーマの確認 1. 「PMS実施ハンドブック」出版 2. 2014年度総会への研究会発表 3. 「個人情報保護法2015年改正研究」

5. 支部

>目次

5. 1. 北海道支部

5. 1. 1. 第12回支部総会実施

(1) 日時：2013年12月6日(金) 18:30～19:30 参加者：参加7名、委任5名

(2) 内容：

- ・2013年活動報告、2014年活動計画、
- ・2014年役員選出、2014年研究会・勉強会計画、
- ・2013年会計報告および2014年会計予算について

5. 1. 2. 定例研究会・勉強会実施

(1) 1月研究会 参加者：6名

1) 日時：1月28日(月) 18:30～20:30

2) テーマ：「新しい時代のシステム監査を考える」

- ・第175回研究会のビデオ上映とディスカッション

(2) 2月研究会

1) 日時：2月15日(金) 18:30～20:30 参加者：6名

2) テーマ：「最近の組み込み系開発について

～家電や自動車に使われているマイクロコンピュータの開発の実演など～

- ・研究発表とディスカッション

・発表者：大館 広之 氏

(3) 3月研究会

1) 日時：3月25日(月) 18:30～20:30 参加者：7名

2) テーマ：「予兆型システムリスクに挑む、

～先進的なこれからのシステムリスク管理、監査を提案する～

- ・第178回研究会のビデオ上映とディスカッション

(4) 4月研究会

1) 日時：4月22日(月) 18:30～20:30 参加者：9名

2) テーマ：「内部統制とシステム監査」

- ・研究発表とディスカッション

・発表者：宮崎 雅年 氏

(5) 5月研究会

1) 5月27日(月) 18:30～20:30 参加者：6名

2) テーマ：「コーポレート・ガバナンスとITガバナンス ～監査役の視点から～」

- ・第176回研究会のビデオ上映とディスカッション

(6) 6月研究会

1) 日時：6月24日(月) 18:30～20:30 参加者：4名

2) テーマ：「SNSの情報セキュリティを考える ～フェイスブックが危ない～」

- ・第177回研究会のビデオ上映とディスカッション

(7) 7月研究会

1) 日時：7月29日(月) 18:30～20:30 参加者：10名

2) テーマ：「企業IT動向調査2013(2012年度調査)」 および

「個人情報影響評価PIAの要諦とシステム監査との関係」

- ・第182回研究会のビデオ上映とディスカッション

(8) 8月研究会

1) 日時：8月26日(月) 18:30～20:30 参加者：9名

2) テーマ：「フィッシングに関する最新動向について」 および

「フィッシング摘発、警察の取り組みについて」

・CSA・ASA継続教育セミナーのビデオ上映とディスカッション

(9) 9月研究会

- 1) 日 時：9月30日(月) 18:30～20:30 参加者：11名
- 2) テーマ：「実演によるサイバー攻撃の仕組み解説」
・第183回研究会のビデオ上映とディスカッション

(10) 10月研究会

- 1) 日 時：10月30日(水) 18:30～20:30 参加者：9名
- 2) テーマ：「システム監査の実践的な進め方～チェックポイントと実務上の留意点～」
・第185回研究会のビデオ上映とディスカッション

(11) 11月研究会

- 1) 日 時：11月25日(月) 18:30～20:30 参加者：10名
- 2) テーマ：「今ソフトウェア要求のためのビジュアルモデル」
・研究発表とディスカッション
・発表者：渡部 洋子 氏

5. 1. 3. 広報活動

(1) 支部活動について対外的に広報、および支部員勧誘を行った。

(2) 他団体との交流：

北海道ITコーディネータ協議会、日本ITストラテジスト協会北海道支部、および社団法人 中小企業診断協会北海道支部との講演会共催、勉強会の相互開放

(3) 支部員の変動：

- 1) 2012年度 個人会員19名、法人会員5名
- 2) 2013年度 個人会員19名、法人会員4名
- 3) 支部活動への参加：上記以外に非会員9、他支部3名参加

5. 1. 4. メーリング・リストによる連絡

支部メーリング・リストにより、支部員間の連絡および情報交換を実施している。

5. 1. 5. ホームページによる情報発信

協会のホームページの支部のコーナーに、北海道支部の情報を記載している。

5. 2. 東北支部

[>目次](#)

2003年6月28日に設立した東北支部は、2012年度の活動として、会員の増加、システム監査の普及、支部のPRなど、計画に基づいて以下のとおり活動した。

5. 2. 1. 第11回東北支部総会

- 1) 日程：2012年12月15日(土) 15:30～18:40
- 2) 場所：仙台市太白区中央市民センター 中会議室
- 3) 出席者：会員数34名 出席者11名(委任状23名)
- 4) 議題：
 - ・報告事項1 2012年度事業活動
 - ・報告事項2 2012年度収支報告
 - ・第1号議案 2012年度活動計画
 - ・第2号議案 2012年度予算計画
 - ・第3号議案 2013年度役員選任
 - 支部長 : 横倉正教
 - 副支部長 : 高橋壮太
 - 会計 : 佐藤雅英
 - 研究会 : 小野寺司、小野寺学
 - 広報 : 櫻谷昭慶、館田あゆみ
 - 監事 : 成田由加里

○顧問 : 鈴木実

5) 講演会 : 16 : 40~18 : 40

「中小企業のリスクマネジメントとコンプライアンス」
～被災地の事業所は何を準備していたか、何が起こったか、
そしてこれから何を行うのか～

木幡仁一氏 (税理士・ITコーディネータ)

5. 2. 2. 「ITCみやぎ・SAAJ東北、JISTA東北ワークショップ2013」開催

1) 日程 : 2013年11月26日(土) 9:30~18:30

2) 場所 : 仙台市 日立ソリューションズ東日本 6階 会議室

3) 主催 : 日本システム監査人協会東北支部

ITコーディネータ宮城会 (ITCみやぎ)

日本ITストラテジスト協会東北支部 (JISTA東北)

後援 : 東北経済産業局、宮城県、NPO法人ITコーディネータ協会

4) 内容 : 参加者 : 23名

・開講式 主催者挨拶

・講演1 「ご挨拶と経済産業省の施策説明(仮)」

東北経済産業局 情報・製造産業課 課長 渡邊善夫氏

・講演2 「情報とセキュリティと法律」

東北大学大学院法学部研究科 准教授 金谷吉成氏

・講演3 「ITCに要求されるプロジェクト・マネジメント力」

ホビット・コンサルティング 代表取締役 久保山祐児氏

・講演4 「被災地の子供たちを支える教育支援制度」

～学校外教育バウチャー制度の成果と課題～

(社)チャンス・フォー・チルドレン代表理事 雑賀雄太氏

・特別講演 「自然言語処理から見たビッグデータの可能性」

東北大学大学院情報科学研究科 教授 乾健太郎氏

5. 2. 3. 定例研究会及び役員会

(1) 2月例会

1) 日程 : 2013年2月2日(土) 15:00~18:00

2) 会場 : 仙台市シルバーセンター 5階 会議室

3) 内容 :

・連絡事項

・年間活動計画について

・研究会(2013年度のテーマ)について

「マネージドホスティングサービス」

4月 : どのようなものか(クラウド、IaaS、PaaS、SaaS、APMとの違い)

6月 : どのようなリスクが考えられるか

8月 : どのように監査するか

(2) 4月例会

1) 日程 : 2013年4月13日(土) 13:00~17:00

2) 会場 : コラッセふくしま 303B会議室

3) 内容 :

・連絡事項

・東北支部設立10周年記念事業について

・ワークショップについて

・合宿について

・研究会「マネージドホスティングサービス(MHS)とは」

(3) 6月例会

- 1) 日程：2013年6月29日（土） 14:00～17:00
- 2) 会場：山形市 山形テルサ 交流室B
- 3) 内容：
 - ・連絡事項
 - ・東北支部設立10周年記念事業（システム監査セミナー）について
 - ・東北支部設立10周年記念事業（記念誌の製作）について
 - ・ワークショップについて（3団体合同で、10月開催予定）
 - ・研究会「マネージドホスティングサービス(MHS)におけるリスク（留意点）とは」

(4) 8月例会

- 1) 日程：2013年8月24日（土） 14:00～17:00
- 2) 会場：仙台市 戦災復興記念館 4階第5会議室
- 3) 内容：
 - ・連絡事項
 - ・JISTA 東北、SAAJ 東北、ITC みやぎ、合同ワークショップについて
 - ・東北支部設立10周年記念事業（システム監査セミナー）について
 - ・東北支部設立10周年記念事業（記念誌の製作）について
 - ・研究会「マネージドホスティングサービス（MHS）の監査方法」

(5) 10月例会

- 1) 日程：2013年10月19日（土） 14:00～17:00
- 2) 会場：仙台市 仙台MTビル 会議室
- 3) 内容：
 - ・連絡事項
 - ・東北支部設立10周年記念事業（システム監査セミナー）について
 - ・東北支部設立10周年記念事業（記念誌の製作）について
 - ・研究会「マネージドホスティングサービス（MHS）における監査（まとめ）」

(6) 11月役員会

- 1) 日程：2013年11月8日（金） 18:00～20:00
- 2) 会場：仙台市 日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）ミーティングルーム2
- 3) 議題：
 - ・支部総会について（議案書、案内、講演会）
 - ・東北支部設立10周年記念事業について（システム監査セミナー、記念誌の製作）

5. 2. 4. 東北支部設立10周年記念事業

- (1) システム監査実践セミナー（参加者が規定人数に達しなかったため中止）
- (2) 記念誌（製作中）
- (3) 特別講演会（第12回支部総会後に開催）

- 1) 日程：2013年12月14日（土） 15:00～17:00
- 2) 会場：仙台市 日立システムズホール仙台（青年文化センター）研修室1
- 3) 内容：参加者：12名
 - ・「共通フレーム2013概説」

IPA/SEC 連携委員 室谷隆氏

5. 2. 5. 広報宣伝活動

ITCみやぎ・SAAJ東北・JISTA東北ワークショップにおいて、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。（システム監査、支部活動の紹介）

5. 3. 北信越支部

5. 3. 1. 2013 年度の目標

- (1) 支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指す。
- (2) 研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上
 - ・システム監査研究会
 - ・情報セキュリティ監査研究会
- (3) 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上
 - ・研究会ビデオの貸出し運営
- (4) 北信越支部設立 10 周年イベントととして「西日本支部合同研究会 in Kanazawa」を開催
- (5) プレゼンテーション能力の向上
- (6) インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上

5. 3. 2. 活動報告

- (1) 北信越支部年度総会 2013 年 3 月 16 日 (土)
(富山市 富山県民会館) [参加 : 16 名]
 - 1) 年度総会
 - ・昨年度活動報告と今年度活動計画について
 - ・昨年度会計報告と今年度会計計画について
 - 2) 本部総会報告
 - 3) 研究会
 - ・「ソフトウェア品質監査制度」を考える
 - － 第 171 回月例研究会「ソフトウェア品質監査制度」ビデオ視聴
 - － 中部支部合同研究会 参加の方々からのご報告
 - － 意見交換
- (2) 福井県例会 2013 年 6 月 8 日 (土)
(福井市 アオッサ AOSSA) [参加 : 10 名]
 - 1) 報告「情報セキュリティ 組織の内部不正に対する研究の紹介
「人的脅威対策に関する犯罪理論の応用」
角屋 典一 氏
 - 2) 報告「外部委託先管理とシステム監査」
小嶋 潔 氏
 - 3) 西日本支部合同研究会 in Kanazawa 運営検討
- (3) 中部・北信越支部, JISTA 中部支部 合同セミナー
日時 : 2013 年 7 月 20 日～7 月 21 日
(名古屋市 富士通システムズ・ウエスト 中部支社) [北信越支部参加 : 4 名]
 - 1) 合同セミナー : 「システム監査体験セミナー (実践編)」
- (4) 新潟県例会 2013 年 9 月 7 日 (土)
(長岡市 まちなかキャンパス長岡) [参加 : 11 名]
 - 1) 報告「クラウドにおけるセキュリティの確保」報告/意見交換
神田 英一朗 氏
 - 2) 報告「ビッグデータ 宝の山♪」
梶川 明美 氏
 - 3) 「システム監査の普及促進」に関する意見交換
 - ・西日本支部合同研究会 in Kanazawa テーマ検討
- (5) 石川県例会 2013 年 11 月 23 日 (土)
(金沢市 IT ビジネスプラザ武蔵) [参加 : 11 名]
 - 1) 2014 年度計画について

(6) 西日本支部合同研究会 in Kanazawa 2013年11月23日(土)

(金沢市 ITビジネスプラザ武蔵) [参加:27名(本部:1,九州:2,中四国:1,
近畿:1,中部:5,他支部:1,後援団体:3,北信越支部:13)]

1) テーマ:『システム監査の普及促進 –システム監査に対する社会の期待・ニーズに呼応し、
システム監査の普及促進について考える–』

2) 『力強いシステム監査の実現へ』

日本システム監査人協会 副会長 中山 孝明 様

3) 『地域団体におけるシステム監査の価値について

–社会、コミュニティ、個人のニーズに応えるシステム監査–』

日本システム監査人協会 九州支部 中溝 統明 様

4) 『新しい「IT事業者評価制度」導入の政策提言』

日本システム監査人協会 近畿支部 中田 和男 様

5) 『民間企業におけるシステム検査の利用について』

日本システム監査人協会 中部支部 原 善一郎 様

6) 『金融機関におけるシステムリスク管理の取組について

–経営の関与とシステム監査の活性化–』

日本システム監査人協会 北信越支部 長谷部 久夫 様

5. 3. 3. 支部体制

- 支部長 : 宮本茂明 (石川)
- 副支部長 : 梶川明美 (富山)
- 会計 : 坂井敏之 (富山)
- 情報統括 : 清水尚志 (石川)
- 顧問 : 伊藤祐太郎 (富山)、森広志 (富山)
- 県部会長 : 角屋典一 (福井)、木村武志 (石川)、國谷吉英 (富山)、
風間一人 (新潟)、藤原康弘 (長野)
- 書記 : 尾島純子 (富山)
- 監事 : 高瀬清春 (富山)

5. 4. 中部支部

>目次

5. 4. 1. 活動方針

- (1) 中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。
- (2) 中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開していく。
- (3) SAAJの原点に戻った活動を推進する。(例:システム監査技術向上)

5. 4. 2. 支部体制

- 支部長 : 栗山 孝祐
- 副支部長 : 大友 俊夫、澤田 裕也
- 会計担当 : 安井 秀樹
- 会計監査 : 早川 晃由
- 顧問・監事 : 田中 勝弘
- 支部担当役員 : 山崎(敏)(広報担当)、石井(研究開発担当)
原(国際取引研究・国際交流)、堤(デジタルコンテンツ担当)
萬代(システム取引法務研究)、
田中(勝)(本部研究会ビデオ管理担当)

5. 4. 3. 活動内容

(1) 第1回例会

- 1) 日時: 2013年1月19日(土) 14:00-17:00

- 2) 場所：名古屋市(東桜第1ビル) 参加10名
- 3) 内容：
 ・2013年度活動方針説明
 ・「Webアプリケーションのセキュリティ対策」 澤田 裕也
- (2) 第2回例会
- 1) 日時：2013年3月16日(土) 14:00-17:00
- 2) 場所：名古屋市(栄メンバーズオフィスビル) 参加11名
- 3) 内容：
 ・事務連絡等
 ・グローバル監査報告&インド事情 栗山 孝祐
 ・今後の活動予定について
- (3) 第3回例会
- 1) 日時：2013年5月18日(土) 14:00-17:00
- 2) 場所：岐阜市(岐阜市生涯学習センター) 参加26名
- 3) 内容：
 ・事務連絡等
 ・講演「企業IT動向調査2013」の概要 JUAS 浜田 達夫 常務理事
 ※終了後、長良川鶴飼見学(鶴飼舟乗船)
- (4) 第4回例会
- 1) 日時：2013年9月28日(土) 14:00-17:00
- 2) 場所：浜松市(アクトシティ浜松研修交流センター) 参加9名
- 3) 内容：
 ・協会連絡事項など
 ・「SAAJ中部・北信越支部、JISTA中部支部合同システム監査体験セミナー(実践編)」(7月)の会報報告
 ・「システム監査の普及促進」に関する意見交換
 -民間企業におけるシステム検査の利用について 原 善一郎
 -IPAのソフトウェア監査制度や関連するISOの最新情報について 栗山 孝祐
 ・2013年度西日本支部合同研究会 in Kanazawaへの準備について
- (5) 第5回例会
- 1) 日時：2013年11月9日 14:00-17:00
- 2) 場所：名古屋市((株)富士通システムズ・ウエスト中部支社) 参加8名
- 3) 内容：
 ・協会連絡事項など
 ・情報システム監査についての一考察 大友 俊夫
 ・中部支部の今後の活動課題について(意見交換)
 -システム監査実践セミナーの継続について
 -PIAへの技術対応について
- (6) 中部支部総会
- 1) 日時：2013年12月14日 17:00~18:00
- 2) 場所：名古屋市(名古屋駅前 やぎや) 参加10名
- 3) 内容：
 ・2013年度活動実績及び決算(案)報告
 ・2014年度役員を選任、本部理事の推薦
 ・2014年度活動計画及び予算(案)

5. 4. 4. イベント

- (1) SAAJ中部・北信越支部、JISTA中部支部合同システム監査体験セミナー 参加17名

- 1) 日時：2013年7月20日（土） 13:00～7月21日（日）15:00
 - 2) 場所：（株）富士通システムズ・ウエスト中部支社
 - 3) 講師：SAAJ近畿支部 三橋 潤様
 - 4) 概要：SAAJの監査事例にもとづく教材を使用し、座学とロールプレイによるシステム監査の実践を、4チームに分かれて実施した。
- (2) 西日本支部合同研究会参加 テーマ『システム監査の普及促進』
- 1) 日時：11月23日(土) 13:00～17:00
 - 2) 場所：金沢市（ITビジネスプラザ武蔵）
 - 3) 内容
 - ・中部支部発表「一民間企業におけるシステム検査の利用について」 原 善一郎

5. 5. 近畿支部

[>目次](#)

5. 5. 1. 支部体制

(1) 支部役員

- 理事（支部長）：林裕正
- 理事（副支部長・会計）：是松徹
- 理事（副支部長、BCP研究PJ）：荒町弘
- 担当役員（コンプライアンスのシステム監査研究PJ、クラウド研究PJ）：雑賀努
- 担当役員（システム監査法制化研究PJ）：田淵隆明
- 担当役員（BCP研究PJ）：大塚一志
- 担当役員（セミナーグループ）：広瀬克之
- 担当役員（ITサービスグループ）：永田淳次
- 監事：福徳泰司

(2) 支部参与：安本哲之助、吉田博一

(3) サポーター（順不同）：鈴木章彦、吉谷尚雄、松井秀雄、神尾博、金子力造、三橋潤、植垣雅則、松浦康弘（8名）のサポーター各位の協力を得て、支部活動を行った。

5. 5. 2. 支部総会

- (1) 日時：1月18日（金） 場所：大阪大学中之島センター 講義室201
- (2) 出席者：26名、委任状46名
- (3) 議題

- 1) 支部役員を選出について
 - 2) 2012年度事業報告と決算について
 - 3) 2013年度事業計画と予算について
- 全て異議なく承認された。

5. 5. 3. 支部役員会・サポーター会議

支部活動の報告、今後の活動について、支部役員、及びサポーター各位と討議した。場所は、常翔学園大阪センターである。

- (1) 支部役員会 3月22日 6月28日 9月27日 11月29日
- (2) サポーター会議 6月8日 9月27日 12月14日

5. 5. 4. 定例研究会

近畿支部会員の方を中心に講師をお願いし、講演会形式で研究会を開催した。開催は、奇数月の第三金曜日の18時半から約2時間を基本とし、今年度は7回開催した。

また、年1回開催している、西日本支部の合同研究会には、近畿支部会員より講師を1名派遣した。

- (1) 第138回定例研究会 1月18日（金） 出席者：43名
 - ・テーマ：「システム監査事例からシステム監査について考える」
 - ・講師：三橋 IT コンサルタント（代表） 三橋 潤氏
 - ・場所：大阪大学中之島センター

- (2) 第139回定例研究会 3月15日(金) 出席者: 34名
 ・テーマ: 「マネジメントシステム規格の統合的な利用と効果的な認証審査」
 ・講師: 有限会社吉谷コンサルティング事務所 代表取締役 吉谷 尚雄氏
 ・場所: 大阪大学中之島センター
- (3) 第140回定例研究会 5月17日(金) 出席者: 41名
 ・テーマ: 「あなたのへそくり、奥様にばれていませんか」
 ・講師: 西日本電信電話株式会社 大阪支店 粕淵 卓氏
 ・場所: 大阪大学中之島センター
- (4) 7月は近畿支部25周年記念大会開催のため定例研究会は開催無し
- (5) 第141回定例研究会 9月20日(金) 出席者: 39名
 ・テーマ: 「私が経験したシステム監査の実態について」
 ・講師: 関電システムソリューションズ株式会社 椋野 誠司様
 ・場所: 大阪大学中之島センター
- (6) 第142回定例研究 11月15日(金) 出席者: 32名
 ・テーマ: 「データ・センタ運営におけるシステム監査の有用性」
 ・講師: 西日本電信電話株式会社 京都支店 横山 雅義氏
 ・場所: 大阪大学中之島センター
- (7) 第143回定例研究会(ISACA 大阪支部との合同講演会) 12月14日(土) 出席者: 50名
 ・テーマ: 「サポート期限切れOSの守り方」
 ・講師: ネットエージェント株式会社 代表取締役 杉浦 隆幸氏
 ・場所: 大阪大学中之島センター
- (8) 西日本支部合同研究会(中部支部・北信越支部・近畿支部・中四国支部・九州支部)
 ・日時: 11月23日(土) 13:00~17:00
 ・場所: ITビジネスプラザ武蔵 6F交流室1
 ・テーマ: 「システム監査の普及促進」
 ※ 近畿支部からは、中田和男氏が研究成果を発表した。
 ※ 発表テーマ: 「新しい「IT事業者評価制度」導入の政策提言」

5. 5. 5. システム監査勉強会

本部の月例研究会のDVDを視聴する形式の勉強であり、偶数月の第三土曜日に開催した。

- (1) 第35回 2月16日(土) 出席者: 51名
 SAAJ本部第176回(1)、177回(2)の月例研究会のDVDを視聴した。
 ・テーマ1 「コーポレート・ガバナンスとITガバナンス～監査役視点から～」
 講師: アリアンツ生命保険株式会社 監査役 河邊 精一氏
 ・テーマ2 「SNSの情報セキュリティを考える」
 講師: 日本アイ・ビー・エム株式会社 経営品質・情報セキュリティ
 情報セキュリティ推進室 守屋 英一氏
 ・場所: 大阪大学中之島センター
- (2) 第36回 4月20日(土) 出席者: 44名
 SAAJ本部第178回(1)、179回(2)の月例研究会のDVDを視聴した。
 ・テーマ1 「予兆型システムリスクに挑む、一先進的なこれからのシステムリスク管理、監査を提案する」
 講師: T. M. A パートナーズ(株) 代表取締役 遠藤 誠氏
 (NPO法人日本システム監査人協会 理事)
 ・テーマ2 「IT-AuditのISO化推進に関する状況報告(ISO/IECTR30120)」
 講師: 日本システム監査人協会 システム監査基準研究会
 力 利則氏、松枝 憲司氏、松尾 正行氏
 ・場所: 大阪大学中之島センター

(3) 第37回 6月15日(土) 出席者:18名

SAAJ第12期通常総会での特別講演DVDを視聴した。

・テーマ「職業安定行政におけるシステムの刷新について」

講師:厚生労働省職業安定局労働市場センター業務室 室長 村上 竹男氏

・場所:大阪大学中之島センター

(4) 第38回 8月17日(土) 出席者:44名

SAAJ本部第182回(1)、183回(2)の月例研究会のDVDを視聴した。

・テーマ1「個人情報影響評価PIAの要諦とシステム監査との関係」

講師:公立大学法人首都大学東京 産業技術大学院大学 教授 瀬戸 洋一氏

・テーマ2「実演によるサイバー攻撃の仕組み解説」

講師:独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)技術本部

セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー

研究員 渡辺 貴仁氏

・場所:大阪大学中之島センター

(5) 第39回 10月19日(土) 出席者:33名

SAAJ本部第184回(1)、185回(2)の月例研究会のDVDを視聴した。

・テーマ1「クラウドサービス利用の実態と点検・監査のポイント」

講師:独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)技術本部

セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー

普及グループ 研究員 河野 省二氏

・テーマ2「システム監査の実践的な進め方」

講師:東洋大学 総合情報学部 教授 島田 祐次氏

・場所:大阪大学中之島センター

5. 5. 6. セミナー活動

「システム監査を学ぶ3つのコース」として以下のセミナーを企画し、実施することができた。体験セミナー(実践編)では教材のリニューアルの案が出ており、新教材の準備に今後取り掛かり始めた。

(1) システム監査体験セミナー(入門編)

昨年と同じ教材で、1日コースとして開催した。

・日時:6月22日(土)10:00~17:00 受講者:13名

・場所:常翔学園大阪センター

(2) システム監査体験セミナー(実践編)

教材内容を少し見直し(短縮化)し、日帰りの2日間コースにて開催した。

・開催日:9月21日(土)、22日(日)の2日間 受講者:4名

・場所:大阪産業創造館

(3) 事例に学ぶシステム監査の基本と応用

会員が持つ実際の監査経験を4つのテーマに分け、それぞれ45分で講演を実施した。

・日時:11月16日(土)13:00~17:00 受講者:12名

・場所:常翔学園大阪センター

5. 5. 7. 研究プロジェクト・グループ活動

次の5つの研究会、2つのグループを設置し、支部会員により活発な研究会活動やセミナー等の準備作業を行った。また、近畿支部創設25周年記念研究大会開催にあたっては、実行委員を募り開催に向けた準備等、各種取組を実施した。

(1) コンプライアンスのシステム監査研究プロジェクト

システム監査学会と共同プロジェクトとして実施してきたが2013年4月をもって共同プロジェクトは終了した。研究成果を6月7日に開催された「システム監査学会第27回研究大会」にて報告した。

・主査:雑賀勉氏 副主査:吉田博一氏

研究会参加者:5名

(2) ソフトウェア著作権研究プロジェクト

4月23日の会合を第1回目として「ソフトウェア著作権研究プロジェクト」活動を新たに開始した。

- ・主査：荒牧裕一氏 副主査：吉田博一氏 研究会参加者：5名
- ・開催日：4月23日 5月28日 6月25日 7月30日 8月27日
9月24日 10月22日 11月26日 12月21日

(3) システム監査法制化研究プロジェクト

諸外国でのシステム監査の法制化の実情、及び、パッケージ・ソフトウェアへの製造物責任法の適用の有無等の調査を行った。SI認定・登録に代わる新しい「IT事業者評価制度」を作成・提案し、7月の研究大会及び11月の西日本合同研究会(金沢)において発表した。また、定例研究会において「データ・センタのシステム監査」の報告を行った。また、本部会報に複数回の寄稿・投稿を行い、国会議員・地方議員等に各種ロビー活動を実施した(ロビー活動報告書は12月の本部会報に記載)

- ・主査：田淵隆明氏 副主査：神尾博氏 研究会参加者：5名
- ・開催日：1月11日 2月8日 3月8日 4月12日 4月27日 5月10日
6月15日 8月9日 9月13日 10月11日 11月8日 12月13日

(4) BCP研究プロジェクト

災害に強い情報システム、災害が発生した場合にも早期に復旧を可能にする情報システムとは何か、また、災害が発生した場合に重要となる初動段階におけるITの活用や重要システムのBCP観点での監査チェックポイントの研究等を行った。

- ・主査：荒町弘氏 副主査：大塚一志氏 研究会参加者：8名
- ・開催日：2月8日 3月19日 4月19日 5月9日 6月7日 8月9日
9月9日 10月7日 11月7日 12月21日

(5) クラウドコンピューティングのシステム監査研究プロジェクト

システム監査学会と共同プロジェクトとして実施してきたが、2013年4月をもって共同プロジェクトは終了した。研究成果を6月7日に開催された「システム監査学会第27回研究大会」にて報告した。

- ・主査：松田貴典氏 副主査：雑賀勉氏 深瀬仁氏 (システム監査学会)

(6) セミナーグループ

セミナーグループでは、近畿支部主催のセミナーの企画と開催のため活動を行った。

- ・主査：広瀬克之氏 参加者：9名
- ・開催日：3月13日 4月10日 5月8日 6月12日 7月17日 8月14日
9月10日 10月8日 11月13日 12月18日

(7) ITサービスグループ

ITサービスグループでは、近畿支部の情報交換、情報発信及びWG・研究会の活動支援を行った。

- 1) 支部会員紹介記事の掲載
 - 2) 研究論文・報告書・成果物のサイトへの掲載
 - 3) メールマガジンの発刊、定期的発行
 - 4) メール・メーリングリストの運用・案内文の検討
 - 5) サイトに運用ルールガイドラインの整備
 - 6) サイト運用の強化 (IP偽装メール対応、コンテンツ管理ソフトの最新版の維持、バックアップの強化)
- ・主査：永田淳次氏
 - ・メンバー：林裕正氏、吉田博一氏、金子力造氏、吉谷尚雄氏、神尾博氏、下田あずさ氏
 - ・開催日：2月6日 4月9日 6月6日 12月21日

5. 5. 8. 近畿支部 創設25周年記念研究大会

近畿支部創設25周年を記念して統一テーマを掲げ、支部研究プロジェクト活動成果の報告(4編)、会員から応募のあった研究論文の発表(2編)、およびパネルディスカッションを行った。実施にあたって、実行委員を募り開催に向けた準備等、各種取組を実施した。

- ・実行委員名簿：林裕正、是松徹、荒町弘、吉田博一、永田淳次、広瀬克之、松井秀雄、吉谷尚雄、三橋潤、植垣雅則、小河裕一、鈴木章彦、金子力造、竹下健一、鬼松嵩、松本拓也
- ・実行委員会開催日：3月8日 4月16日 5月14日 6月4日 6月18日 7月26日

【大会開催概要】

- ・日 時：7月6日（土）13：00～17：00 出席者：94名
- ・場 所：大阪大学中之島センター 3階 講義室304
- ・テーマ：「システム監査の新領域への対応」

【当日プログラム：SAAJ会報 No. 151 より抜粋】

- 1) コンプライアンスのシステム監査について（第Ⅲ期報告・最終）
 - ・発表者：雑賀 努 氏（株式会社ニイタカ 監査室）
- 2) クラウドコンピューティングのシステム監査（最終報告）
 - ・発表者：深瀬 仁 氏（パナソニック溶接システム株式会社）
- 3) BCPと親和性の高い情報処理システムを目指して
 - ・発表者：永田 淳次 氏
- 4) 新しい「IT事業者評価制度」導入の政策提言
 - ・発表者：中田 和男 氏
 - ・システム監査法制化プロジェクト：中田 和男氏、田淵 隆明氏、神尾 博氏、横山 雅義氏
- 5) 対策型監査の効果と重要性
 - ・発表者：木村 修二 氏
 - ・情報システム監査株式会社 木村 修二氏、深瀬 知寛氏
 - ・コメンテータ：中野 節子 氏
- 6) 保証型システム監査を可能にするアプローチ
 - ・発表者：松井 秀雄 氏
 - ・コメンテータ：中野 節子 氏
- 7) パネルディスカッション ーシステム監査2.0への進化は可能かー
 - ・モデレータ：吉田 博一 氏
 - ・パネラー：浦上 豊蔵 氏、雑賀 務 氏、田淵 隆明 氏、永田 淳次 氏、深瀬 仁 氏

5. 6. 中四国支部

>目次

5. 6. 1. 活動概要

- (1) 月例会の実施。（計9回実施）
- (2) 西日本支部合同研究会への参加。
- (3) 支部メーリング・リストによる連絡、情報交換等。

5. 6. 2. 活動実績

月例研究会（東京）のビデオの視聴及び情報交換を中心に月例会を実施した。

- (1) 1月度月例会 1月28日（月）18:30-20:30 出席10名
「SNSの情報セキュリティを考える」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (2) 2月度月例会 2月25日（月）18:30-20:30 出席9名
「予兆型システムリスクに挑む」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (3) 3月度月例会 3月25日（月）18:30-20:30 出席9名
「IT Audit ISO化推進状況」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (4) 4月度月例会 4月22日（月）18:30-20:30 出席11名
「職業安定行政におけるシステムの刷新について」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (5) 5月度月例会 5月27日（月）18:30-20:30 出席9名
「アジャイル開発の概要とこれから」（講師：石橋伸介氏）

- (6) 8 月度月例会 8 月 26 日 (月) 18:30-20:30 出席 8 名
「個人情報影響評価 PIA の要諦」 (ビデオ視聴及び情報交換)
- (7) 9 月度月例会 9 月 30 日 (月) 18:30-20:30 出席 10 名
「実演によるサイバー攻撃の仕組み解説」
「標的型攻撃メールの特徴と対策」 (ビデオ視聴及び情報交換)
- (8) 10 月度月例会 10 月 28 日 (月) 18:30-20:30 出席 6 名
「クラウドサービス利用の実態と点検・監査 (検査) のポイント」 (ビデオ視聴及び情報交換)
- (9) 11 月度月例会 11 月 25 日 (月) 18:30-20:30 出席 8 名
「システム監査の実践的な進め方」 (ビデオ視聴及び情報交換)
- (10) 西日本支部合同研究会
- 1) テーマ 「システム監査の普及促進」
 - 2) 日時 11月23日 (土) 13:00-17:00 出席1名
 - 3) 場所 ITビジネスプラザ武蔵 6F 交流室 1 (石川県金沢市)

5. 6. 3 支部体制

- 支部長 : 溝下 博
- 副支部長 : 福田陽一、廣末 浩之、田川 誠
- 会計 : 福原博明
- 監事 : 本多美和子
- 顧問 : 大谷完次

5. 7. 九州支部

[>目次](#)

5. 7. 1. 支部の状況と役員体制

(1) 支部会員 32名 (2013年11月末日時点。昨年比3名減)

(2) 役員体制

- 支部長 : 中溝統明
- 副支部長 : 船津 宏 荒添美穂
- 会計 : 居倉圭司
- 監査 : 松嶋 敦
- 事務局 : 福田啓二
- 地区担当 : 大分: 梶屋博史、長崎: 平山克己、鹿児島: 山下博美、熊本: 桐原光洋

5. 7. 2. 活動概要

(1) 月例会の開催

通例どおり、月1回の月例会を開催した。(福岡市) また、月例会はシステム監査学会共催となっている。ただし、6・8・11月は他イベントなどがあり休会した。

(2) 西日本支部合同研究会は北信越支部主催で開催(11/23)。

(3) 他団体との合同イベントとして、今年で10回目にあたる

大分合同セミナーを特定非営利活動法人 大分IT経営推進センター
社団法人中小企業診断協会 大分県支部、ITC大分、
システム監査学会との共催で合同セミナーを開催した(11/9)。

(4) 他支部、関連他団体との連携、情報発信の活発化

システム監査学会 (JSSA)、ISACA 福岡支部、福岡 IT コーディネータ推進協議会、
日本 IT ストラテジスト協会 (JISTA) 九州支部、で開催されるセミナーを後援した。

- ・ JISTA 月例会合同勉強会 (6/22)
- ・ ISACA 福岡支部合同月例会 (9/21)

5. 7. 3. 月例会

毎月、東京での月例研究会ビデオ視聴および支部会員の研究・検討・報告事項の発表を中心に行った。
以下は各月の主要事項。(各回の主要発表事項)

- (1) 第261回 1月度月例会 1月26日(土) 15:00-17:00 (参加:9名)
- ・ビデオ視聴 第177回月例研究会
 - 「SNSの情報セキュリティを考える ～フェイスブックが危ない～」
 - ・CSMS (Cyber Security Management System) (福田氏)
- (2) 第262回 2月度月例会 2月16日(土) 13:00-17:00 (参加:6名)
- ・ビデオ視聴 第178回月例研究会
 - 「予兆型システムリスクに挑む、
— 先進的なこれからのシステムリスク管理、監査を提案する —」
 - ・検討テーマ『システム監査の普及促進』
 - ・In novare(自己革新)について(中溝氏)
- (3) 第263回 3月度月例会 3月23日(土) 13:00-17:00 (参加:10名)
- ・ビデオ視聴 第179回月例研究会
 - 「IT-AuditのISO化推進に関する状況報告 (ISO/IECTR30120)」
 - ・『共通フレーム2013』におけるシステム監査
 - ・日独医療情報シンポジウム 報告(中溝氏)
- (4) 第264回 4月度月例会 4月20日(土) 13:00-17:00 (参加:9名)
- ・ビデオ視聴 2013年度第12期SAAJ通常総会
 - 特別講演 「職業安定行政におけるシステムの刷新について」
 - ・「不正アクセスあれこれ」(福田氏)
- (5) 第265回 5月度月例会 5月25日(土) 13:00-17:00 (参加:10名)
- ・JISTA月例会合同勉強会(6月開催)
 - ・有機光エレクトロニクス実用化開発センター
 - ・国際リニアコライダー
 - ・2013年度春期試験「システム監査技術者試験(AU)」午後二問
- (6) 6月度 JISTA 月例会合同勉強会 (参加:46名)
- ・「NISA(少額投資非課税制度)について」
駒走 清文氏 (JISTA九州支部)
 - ・「情報セキュリティ ～多様な攻撃からどう守る?～」
福田 啓二氏 (SAAJ九州支部)
 - ・「ITC鹿児島の変遷や活動内容のご紹介」
清水 康明氏 (ITC鹿児島)
 - ・「ITC鹿児島で実施している勉強会からのご紹介」
前田 理子氏、東中 益男氏 (ITC鹿児島)
 - ・「ワールドカフェ “地方の活性化に果たすITの役割”」
大熊 伸幸氏 (JISTA九州支部)
- (7) 第266回 7月度月例会 7月23日(土) 13:00-17:00 (参加:11名)
- ・ビデオ視聴 第182回月例研究会
 - 「個人情報影響評価PIAの要諦 ～PIAとシステム(情報セキュリティ)監査との関係～」
 - ・6月度 JISTA 月例会合同勉強会報告
 - ・「個人情報影響評価PIA」について
 - ・8月度月例会
 - ・2013年度西日本支部合同研究会 in Kanazawa
 - ・11月イベント
- (8) 8月度月例会
- 8月度月例会は台風15号が8月31日に九州に接近、上陸する恐れがあり流会とした。
- (9) 第267回 9月度月例会 9月21日(土) 13:00-17:00 (参加:22名)
- ・ビデオ視聴 第183回月例研究会

「実演によるサイバー攻撃の仕組み解説」

- ・発表：「COBIT5 の概要 (COBIT4.1 から COBIT5 への変更点) と

COBIT5 Enabling Processes の活用ポイント」

有限責任監査法人トーマツ

エンタープライズ リスク サービス シニアマネジャー

ISACA福岡支部 副会長 小峰英篤 氏

(10) 第268回 10月度月例会 10月26日(土)13:00-17:00 (参加:11名)

- ・ビデオ視聴 第184回月例研究会

「クラウドサービス利用の実態と点検・監査のポイント」

- ・第18回CSAフォーラム「6カ月で構築するPMS」報告(関氏)

- ・“「コト売り」マーケティング”の紹介(中溝氏)

(11) 第269回 2013年度九州支部総会(兼、12月度月例会)

1) 日時:2013年12月14日(土)13:00~17:00 (参加:14名)

2) 会場:早良市民センター 視聴覚室

3) 内容:総会議事(九州支部)

- ・2013年度事業報告
- ・2013年度支部会計報告
- ・2014年度事業計画

4) 月例会

- ・ビデオ視聴 第186回月例研究会

「スマートフォンのアプリケーション・プライバシーポリシーを巡る動向」

- ・2013年度大分合同セミナーの開催報告について(藤平氏)

- ・“チーム脳を高める「質問会議」”の紹介(中溝氏)

5.7.4. 主催、共催イベント

(1)2013年度 SAAJ西日本支部研究会 参加:27名(九州支部:2名)

(中部支部・北信越支部・近畿支部・中四国支部・九州支部)

1) 日時:2013年11月23日(土)13時~17時

2) 会場:ITビジネスプラザ武蔵 6F 交流室1

3) 内容:テーマ:「システム監査の普及促進」

九州支部からは中溝 統明氏が次の内容を発表した。

『地域団体におけるシステム監査の価値について

—社会、コミュニティ、個人のニーズに応えるシステム監査—』

(2)2013年度 合同セミナー 参加:19名(九州支部:3名)

1) 日時:2013年11月9日(土)13:30~17:30

2) 会場:ホルトホール大分 410会議室

3) 主催:日本システム監査人協会九州支部

社団法人中小企業診断協会 大分県支部、特定非営利活動法人 大分IT経営推進センター
ITC大分、システム監査学会

4) 内容:

【第一部】セミナー主催団体会員による発表

- ・「Windows XPサポート切れ問題と消費税増税対策」

大分県中小企業診断士協会・大分IT経営推進センター 阿部芳久 氏

「情報セキュリティ ~多様な攻撃からどう守る?~」

日本システム監査人協会九州支部 福田啓二 氏

【第二部】特別講演

- ・「第六次産業の現状について」

株式会社みらい蔵 代表取締役 山村恵美子 氏

第2部 会計報告及び会計監査報告

>目次

1. 2013年度 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

2013年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第12期

(単位:円)

科目・摘要	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金			
・本部現金預金			
三井住友銀行(日本橋東)	2,052,113		
みずほ銀行(八重洲口)	146,941		
三菱東京UFJ銀行(日本橋)	848,239		
楽天銀行	3,011,378		
郵便振替口座	967,120		
郵便普通預金	3,901,510		
小口現金	318,276		
・支部現金預金			
北海道支部	234,624		
東北支部	168,698		
北信越支部	209,252		
中部支部	535,064		
近畿支部	823,795		
中・四国支部	274,856		
九州支部	155,147	13,647,013	
未収入金(延べ33名分の会費)		330,000	
流動資産合計			13,977,013
2 固定資産			
器具備品			
シュレッダー1台	10,712		
パソコン1台	1,987		
プロジェクター 4台	22,552		
サーバー1台	1	35,252	
ソフトウェア			
Java版会員管理システム2012	822,500		
Java版会員管理システム2013	927,500	1,750,000	
敷金(共同ビル)		966,336	
固定資産合計			2,751,588
資産合計			16,728,601
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金(報酬等に係る源泉徴収税)		132,186	
前受金(翌年分の会費・入会金・CSA更)		169,000	
流動負債合計			301,186
負債合計			301,186
III 差引 期末正味財産合計額			16,427,415

2013年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第12期

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
現金・預金	13,647,013	預り金	132,186
未収入金	330,000	前受金	169,000
流動資産合計	13,977,013	流動負債合計	301,186
		正味財産の部	
固定資産			
器具備品	35,252	前期繰越正味財産	13,530,914
ソフトウェア	1,750,000	当期正味財産増加額	2,896,501
敷金	966,336		
固定資産合計	2,751,588	正味財産合計	16,427,415
資産合計	16,728,601	負債及び 正味財産合計	16,728,601

計算書類に対する注記

2. 1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却

器具備品は定率法、ソフトウェアは定額法により、帳簿価額を直接減額している。

(2) 資金の範囲

資金の範囲は、現金と流動性預金としている。2012年度末及び2013年度末残高は、下記2に記載した通りである。

(3) 消費税に関する会計処理方法

税込方式によっている。なお、控除仕入税額は、消費税法第60条第4項により特定収入に係る課税仕入れ等の税額のみを控除している。

2. 2. 次期繰越収支差額の内容

科目	前期繰越残高	当期末残高
現金・預金	11,336,969	13,647,013
合計	11,336,969	13,647,013
固定性預金	0	0
合計	0	0
次期繰越収支差額	11,336,969	13,647,013

2. 3. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りである。

科目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
器具備品	2,567,365	2,532,113	35,252
ソフトウェア	2,100,000	350,000	1,750,000
合計	4,667,365	2,882,113	1,785,252

3. 2013年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書

>目次

2013年1月1日から2013年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第12期

(単位:円)

科 目	予 算		実 績		差引 (実績-予算)
	(細目)		(細目)		
I 収入の部					
1 入会金・会費収入	7,800,000		8,802,000		1,002,000
入会金収入		100,000		102,000	2,000
会費収入		7,700,000		8,700,000	1,000,000
2 事業収入	6,486,000		8,843,566		2,357,566
普及・啓発、広報事業		0		0	0
研究・研修事業		5,086,000		5,543,966	457,966
認定事業		1,400,000		3,299,600	1,899,600
3 寄付金収入	300,000		636,536		336,536
4 その他収入	1,563,000		1,230,505		△ 332,495
支部収入		2,629,000		2,239,916	△ 389,084
(本部助成金)		△ 1,066,000		△ 1,069,000	△ 3,000
印税収入		0		57,876	57,876
雑収入		0		1,713	1,713
当期収入合計 (A)	16,149,000		19,512,607		3,363,607
II 支出の部					
1 事業費	8,733,000		8,374,442		△ 358,558
普及・啓発、広報事業費		3,076,000		2,259,823	△ 816,177
研究・研修事業費		5,132,000		5,058,579	△ 73,421
認定事業費		525,000		1,056,040	531,040
2 管理費	8,217,000		7,794,137		△ 422,863
通信費		77,000		90,192	13,192
旅費交通費		544,000		394,820	△ 149,180
消耗品費		92,000		186,659	94,659
会議費		280,000		249,630	△ 30,370
事務局手当		2,145,000		2,534,025	389,025
事務所運営費		1,765,000		1,643,427	△ 121,573
ハード・ソフト費用		255,000		222,900	△ 32,100
支部経費・運営費		2,744,000		2,106,057	△ 637,943
商標登録更新料		0		70,500	70,500
雑費		315,000		295,927	△ 19,073
3 予備費	300,000		0		△ 300,000
4 減価償却費	300,000		349,327		49,327
5 租税公課	0		98,200		98,200
当期支出合計 (B)	17,550,000		16,616,106		△ 933,894
当期収支差額 (A) - (B)	△ 1,401,000		2,896,501		4,297,501
前期繰越収支差額 (C)	13,530,914		13,530,914		0
当期繰越収支差額 (A)-(B)+(C)	12,129,914		16,427,415		4,297,501

*会費収入には、未収入金330,000円を含む。

*支部収入2,239,916円のうち1,069,000円は本部助成金である。

監査報告書

1. 特定非営利活動法人日本システム監査人協会における2013年度（2013年1月1日から2013年12月31日）の事業予定・実績表、貸借対照表並びに財産目録は、関係諸帳簿、その他の関係書類を監査したところ、いずれも適正であり、また、公益法人会計基準に準じて正確に作成されたものであることを認めます。
2. 業務遂行に関しては、不正行為または法令もしくは定款に違反する事実は認められません。

2014年1月25日

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

監事 富山 伸夫 

監事 金子 長男 

1. 本部・計画

1. 1. 全般概要

2014年度の協会運営の方向性として、システム監査の普及、促進活動の一層の推進のため、協会の信頼性を高めることを目的とした協会活動を行う。会員各位から寄附を頂いた実績をもとに2014年度中に東京都へ「認定NPO法人」の申請を行う。認定によって協会の信頼性、システム監査人の社会的評価の向上を図る。また、システム監査の活性化の一環として、IT-Audit等のISO化、JIS化、システム監査に関連する他団体との交流、会員とのコミュニケーション向上のためホームページの整備、会員ポータルサイトの導入等を進める。

(1) 2014年度の協会事業について

協会事業の方向性は次の3点とする。

1) システム監査人の社会的評価の向上

「認定NPO法人」認定によって、公認システム監査人資格のブランド化を図る。

2) システム監査の活性化

「認定NPO法人」認定によって、システム監査を公の活動として活性化させる。

3) 協会組織の充実

東京都の「認定NPO法人」審査基準に従って、協会組織を整備し、また、会員の信頼に応えるよう体制を充実させる。

(2) システム監査の活性化の一環として、次の活動を行う。

1) IT-Audit等、システム監査基準のISO化、JIS化を推進する。

2) システム監査に関連する他団体との交流を進める。

3) 会員とのコミュニケーション向上のため、ホームページの整備、会員ポータルサイトの導入を図る。

(3) 2014年度の予算編成について

協会事業についての考えに基づき次のように予算編成する。

1) 編成方針

予算編成方針は、収益性ととも活動性をより重要とする。

2) 事業活動

事業活動は、収支バランスを原則とする。収支は、公認システム監査人等認定事業収支が隔年上下変動することを考え、2年タームで取り組む。事業活動によっては、重要性や緊急性を考え例外を認める。

3) 事務局

斎藤由紀子事務局長以下、事務局業務の効率化を図り、会員サービスの向上に取り組むとともに、会計（安部主査、藤澤理事、梅里理事）と協力して、協会の健全運営に努める。また、会員とのコミュニケーション向上のため、ホームページを整備し、あらたな会員ポータルサイト導入に向けて予算措置を講じる。

2. 委員会・計画

2. 1. システム監査活性化委員会・計画

当協会内の研究会、委員会、部会等が組織横断的に活性化についての議論を行い、協力して施策を展開することは当協会にとって重要であるとの認識の下、今年度も活性化活動を行う。定常的な活動として位置付ける意味から、名称を「システム監査活性化委員会」（略称、活性化委員会）に改め、メンバーも新体制の下で改めて選任し直す。

委員会の活動主旨は変わりなく、会員の皆様のご意見を反映する機会を増やし、システム監査の活性化、当協会の活性化に貢献する活動を行っていく。2013年度から継続的に進めている施策を成功させることに、当面注力するとともに、新たな活性化施策を策定・実施していく。事業内容的に関連がある（と考えられる）他団体との連携構築・強化にも力を入れていく。

2. 2. 認定委員会・計画

(1) 公認システム監査人等認定委員会の計画

1) 定例の認定作業や更新作業

1月から2月にかけての資格更新審査、認定証の発行および春秋の認定申請受付、審査、面接、認定証の発行は、例年通り実施する。

2) CSA/ASA管理システムの改善

- ・非会員の公認システム監査人及びシステム監査人補も登録情報を更新できる機能を検討し、実施する。
- ・現在は郵送している認定資格更新時の各種書類を、資格者PCから送信出来るように検討し、実施する。

2. 3. CSA利用推進グループ・計画

>目次

(1) 今後の活動計画

- 1) CSAのプレゼンスと社会的な評価や価値を高め、具体的な実効を挙げることを引き続き目標とする。特にCSA資格更新を積極的に行ってもらえるようにCSA資格の取得効果を実感してできる活動を行いたい。CSAに関わる課題を取りまとめ、CSA利用推進G以外の協力も得て、SAAJ全体の活動に広げていく。
- 2) CSAフォーラムはFace to Faceの場として引き続き隔月開催を目標に推進する。CSAフォーラムの活性化と事前登録者の積極的な参加を促す。事前登録をしていないCSA（ASA含む）の事前登録の再募集を行い、事前登録者を増やす。
- 3) CSA利用推進に対する支援メンバーを募集して、CSA利用推進Gの会合を隔月開催する。さらにCSA認定カード、CSAパンフレット、入札条件への資格記載の依頼等に対する普及フォローを強化する。
- 4) 協会ホームページにおけるCSA関連サイトの内容充実を図り、CSAフォーラムへの参加有無に関わらず相互研鑽と情報共有の場の充実を図る。
- 5) CSAを広く社会に知ってもらうためにCSAに関係した実務書の出版も複数の筆者を募りながら検討を開始する。
- 6) 会報、HP、メーリング・リスト、月例会等との連携については、会報、HP&メーリング・リスト、月例会等の担当理事、CSA認定委員会、協会事務局等と協力しながら進めていく。

(2) 今後の課題

- 1) 上記のような活動計画をもとに、今年度は担当理事とスタッフの充実による時間確保を行い具体的な活動につなげる。CSA利用推進Gのスタッフを増やし推進体制を強化して、年間目標、月次計画、役割分担等を決めて、具体的な活動が推進できるように工夫したい。
 - ・CSA利用推進の活動をSAAJ会員に幅広く知ってもらうこと、世の中に対してCSAのプレゼンスを高める活動は推進途上である。SAAJ外部に対する活動を見直して活性化する施策を展開する。より多くのCSAの方々との連携・協力体制作りを進めたい。
 - ・20周年プロジェクトでの検討課題「システム監査人の役割、要求されるスキルなどの見解のまとめ」について、“CSAフォーラム”における共通テーマとしての取り組みを進める。期待されるシステム監査人としての役割、スキルを整理し、より高度なシステム監査人について進むべき人材像の明確化と具体的な育成策の提示を目指していく。

2. 4. 教育研修委員会・計画

>目次

これまでと同様、特別認定講習実施機関（以下「講習実施機関」という）2社に委託し特別認定講習3コースを実施する。

特別認定講習の開催は講習実施機関の計画にもよるが、近年の開催状況から実施回数および修了者数は下表程度を見込む。

講習コース	実施回数	受講修了者数
(1) 論文・プレゼンテーションコース (1日コース)	3回	5名
(2) システム監査に関する知識コース (2日コース)	5回	8名
(3) 情報システムに関する知識コース (2日コース)	2回	2名
計	10回	15名

(注) 受講修了者数は延べ人数（1人複数コース受講）

- ・講習実施機関の試験問題・採点要領・採点結果について、引き続き必要な協議・見直しおよび指導を継続する。
- ・特別認定講習受講者の増加策について、講習実施機関と情報交換や協議を通じ効果的な活動に取り組む。

3. 部会・計画

>目次

3. 1. 会報・計画

(1) 活動計画

システム監査の普及促進を主テーマに、会報が会員やシステム監査人の情報交換を通じてエネルギーの場になるよう取り組んでいく。2014年度から、会報部会主査は、藤澤 博 編集委員が就任する。

- 1) システム監査の普及促進に向けた会報として、情報発信ができるようにする。
- 2) システム監査実務に有益な情報源を目指して活動報告と論文募集を継続する。
- 3) 会員やシステム監査人が記事を投稿しやすいよう運用する。
- 4) 電子化した会報を電子書籍として発行する。
- 5) 優れた投稿記事に会報アワードを授与する。

(2) 特集計画

システム監査の普及促進を通じた経営の品質向上や業務の効率向上等をテーマに記事を集めていく。

- 1) 特集テーマは、システム監査に関する論文、法人部会、基準研究会、月例研究会、事例研究会、情報セキュリティ監査研究会、個人情報保護監査研究会、支部活動の報告である。
- 2) システム監査の普及促進への特集テーマとして、認定NPO法人化プロジェクト、公認システム監査人等認定委員会、システム監査活性化委員会、CSA利用推進、課題解決セミナー、WWS（ワークショップ支援）、IT AuditのISO化・JIS化推進などをとりあげる。

(3) 会報の編集、発行回数

会報投稿原稿は、標準フォーマットを使用して電子会報の編集となるように運用する。

- 1) 会報の発行は、月次発行を維持し、会員やシステム監査人が情報交換できる場を提供する。
- 2) 会報は、PDFファイルダウンロードとし、スマホ閲覧を含め電子版の発行を充実する。
- 3) 記事内容の充実と、見せ方の工夫で、毎月のアクセス数を増加にしていく。

3. 2. 法人部会・計画

>目次

(1) 会員の拡大、システム監査活性化委員会との連携

- ・2013年は退会が1社あったが、新規入会が2社あり、法人正会員が1社増加した。
2014年も引き続きシステム監査活性化委員会等他の部会と連携しつつ、2013年に着手した「システム監査実施動向アンケート調査・分析」「システム監査啓発のための小冊子発行」などの施策を実行し、法人正会員の増強に努める。
- ・システム監査企業台帳登録企業への入会案内の送付、システム監査に係わりの深い企業に対する呼びかけは継続して実施していく。
- ・法人部会、さらには当協会の活動成果のアピールが会員の増強につながるので、活動の充実を図っていく。

(2) 情報セキュリティセミナーの企画・実施

- ・2013年は、千葉県香取市様からセミナー講師派遣の依頼があり、法人会員企業が講師になりセミナーを実施した(2013/2/1実施、参加者約100名)。
- ・当協会の知名度向上にも意義のある活動であり、セミナーの内容の充実、実施事例のアピールなどによって、さらに広報を行い、実績を上げたい。

(3) 会報での法人会員企業紹介

- ・会報に会員企業の企業紹介を行うなど、会員企業からの情報発信機会を増やす。

(4) 会員同士の情報交換

次のようなテーマで、会員企業同士で意見交換を行っていく。

- ・システム監査のビジネス化
- ・システム監査を取り巻く技術、情報、動向など

(5) 定例部会

- ・原則、月1回開催する。

4. 研究会・計画

>目次

4. 1. 月例研究会・計画

(1) 月例研究会の開催回数について

- 1) 2013年度は2012年度と同じ年間10回の研究会を開催した。
- 2) 2014年度も年間10回の開催を予定したい。

(2) 各回のテーマ/講師について

- 1) 引続きシステム監査に関連する、鮮度のよいテーマの選定に努めたい。
- 2) 年度のテーマの選定にあたり、広く理事全員からも意見を出してもらい参考にする。
- 3) 分野については特定分野に偏らずバランスよく選定していきたい。
- 4) 講師については、官公庁、諸団体、民間、大学教員及び当協会関係者等のバランスを考慮していきたい。

(3) 運営の改善等について

- 1) 会場：機械振興会館のホールは、最寄り駅からの距離がある感じではあるが、椅子が資料台の付いたものになり、環境も改善されたので、2014年も引き続き利用することで進めたい。
- 2) テーマ選定：参加者がどのようなテーマを希望するか、アンケートを実施する。また、担当理事による討議により、幅広い観点から、テーマを選定して行く。引き続きホットなテーマ、幅広い講師招聘をすすめ、多くの会員等の期待に応えていきたい。
- 3) 入会案内の実施：参加者の内30%以上を占める非会員参加者に向けて、協会の研究会案内、活動の紹介と、入会案内を実施する(案内印刷物の配布、開催前にスライドを映写)。
- 4) 開催日の設定の工夫：過去に他団体の研究会と開催日が重なってしまい、参加者が減少したことがある。他団体の研究会日程と重複しないよう今年度も(前年同様)可能な範囲で考慮する。
- 5) 支部研究会へのビデオ提供：講師の承諾を得て、本年もビデオの撮影、提供を継続する。

4. 2. システム監査事例研究会・計画

>目次

(1) システム監査サービスの受託・実施

事例研究会の活動の源泉になるものであることから、他団体を通じた経営層や監査役等、監査による受益者に対しても積極的なPR活動を展開する。

また、月例研究会や事例研主催のセミナー参加者に対する、パンフレットの配布や個別面談でニーズを確認し、受託につなげる。

(2) システム監査実務・実践セミナーの開催

公認システム監査人制度の教育制度の一環として、確実にシステム監査実務セミナー4日間コースを2回開催したい。監査サービス実施結果に基づき新教材の開発を行い、システム監査未経験の会員及び公認システム監査人補にシステム監査実務を経験する機会を提供していきたい。

また、会員の知識・経験を明文化しながらセミナー運営手順を見直し、次世代への継承を図る。

具体的な開催計画は、以下の通り。

- 1) 23回システム監査実務セミナー4日間コース
2014年2月開催 (於：東京都中央区)
- 2) 24回システム監査実務セミナー4日間コース
2014年9月開催予定 (於：東京都中央区)
- 3) 27回システム監査実践セミナー2日間コース
2014年5月開催予定 (於：東京都中央区)
- 4) 28回システム監査実践セミナー2日間コース
2014年11月開催予定 (於：東京都中央区)

(3) 事例に学ぶ課題解決セミナーの開催

昨年同様4回の開催を予定する。今年は事例を増やすことを目標として、ノウハウの共有や会員活動の活性化を図る。また、支部への貸し出しを念頭に、講義風景の記録に取り組む。

(4) 月例会の活性化

まとまった形での監査サービスの提供や、監査セミナーの開催だけでなく、プロセスの一部を切り出す形での提供も検討する。そのためにも、会員の監査ノウハウや経験の収集、課題解決セミナー用の事例の収集・教材化を、月例会の場を中心に進めていく。

4. 3. 情報セキュリティ監査研究会・計画

>目次

(1) 2014年度研究テーマについて

今年度前半は、2013年度後半に開始した「プライバシー・バイ・デザイン」のテキストをベースとした研究を継続する。

今年度後半は、2012年から2013年度前半にかけて実施したビッグデータにおけるコンプライアンスに関する部分の検討と、2013年度後半に開始し現在も継続中のプライバシー・バイ・デザインの検討、とくに、プライバシー・バイ・デザインにおける大きなテーマであるFPIA(連携プライバシー影響評価：Federated Privacy Impact Assessment)の二つのテーマを融合し、新たなシステム監査の可能性を探る研究をしたい。

FPIAは、ネットワーク社会の進展にともない、従来、単一の組織(企業、自治体等)で考えてきたプライバシー保護の問題を、複数の組織の連合体に拡張しようというものである。現実には、ある組織が取得した個人情報、ネットワークを通じて転々と異なる組織間を移動し、各組織は異なる利用目的に活用する。今まで単一の組織を前提に考えてきたPIA(プライバシー影響評価)では、このような事態に対応できないので、個人情報が転々流通する全組織の連合体に対してPIAを行おうというのが、FPIAの趣旨である。

一方、ビッグデータの大きな価値のひとつは、異なる種類の大量の情報を分析することによって、単一の種類の情報では得られなかった全く新しい知見を得ることにある。この異種の情報を、異なる組

織が異なる利用目的で取得した情報に拡張すれば、新規の知見が得られる可能性がさらに高くなる。当然、このデータは組織間で流通し、取得当初の個々の組織の利用目的とは違った利用の仕方が取得組織以外の組織で行われるのであるから、本人の同意を得た利用目的以外の利用と第三者提供というプライバシー保護上の大きな問題が発生する。まさにF-P I Aの必要な所以である。

さらに、P I Aは開発フェーズにおけるシステム監査の一要素となり得る。とすればF-P I Aは、ビッグデータ時代におけるシステム監査の新たな領域を開くものになるのではないか。いささか粗っぽい議論であるが、このような展望のもとに、新たなシステム監査の可能性を探りたいと思っている。

(2) 研究会活動のオープン化について

研究会活動の活性化のためにも、当協会のプレゼンス向上のためにも研究会の活動をもっと開かれたものにしていきたい。そのために、会報に毎月、活動報告を掲載しているが、これに対する外部の反応が全く見えない。会報電子版のコメント機能の活用等、無統制な状態にならない程度の活動のオープン化を図っていきたい。

4. 4. システム監査基準研究会・計画

>目次

(1) 研究項目

S A A J システム管理基準体系

(2) 活動項目

1) IT AuditのISO化支援 (ISO/IEC30120)

ISO の IT ガバナンスのフレームワークを検討している (SC7WG40) については、新 SC に格上げが予定されているため、今後の作業方針やスケジュールを確認のうえ、引き続き基準研メンバーにより DTR (Draft Technical Report) の作成等について支援予定。

それに関連して、2 回予定されている国際会議に参加予定である。

また会報等により、会員向けにも情報を提供していく。

2) 各種開発環境・手法における監査のポイント (昨年度中断したテーマ)

力副会長が参画しており、今年中に発行予定である。

(3) 研究会の開催

・ 定例研究会は原則月 1 回。ISO 化に係る検討は随時開催予定。

4. 5. 個人情報保護監査研究会・計画

>目次

(1) 2014 年活動方針

2014 年の活動方針として、以下の 3 項目を掲げる。

1) 「PMS 実施ハンドブック」の出版に向けて、内容の整理とともに関係機関の協力要請を開始し、2014 年度中に出版の目途をつける。

2) 2015 年通常国会で予定されている「個人情報保護法 2015 年改正」について研究をすすめる。

3) P マーク 審査基準について、法改正から導かれる JIS Q15001 の改定に関し、情報収集とともに、事業者のための審査のありかたについて研究を継続する。

5. 支部・計画

>目次

5. 1. 北海道支部・計画

5. 1. 1. 本年度の目標

(1) 定例研究会・勉強会実施

研究会は、テーマを決めて隔月で実施する。基本的に支部員が持ち回りで講師を務める。また、本部より送付される月例会のビデオテープを上映する勉強会を隔月で実施する

(2) 講演会の実施

年に1度、外部より講師を招いて講演会を実施、広く一般に公開する。他団体との共催により聴衆を増やし知名度を高めるとともに、広く交流を図る

(3) システム監査の実践

北海道でのシステム監査普及サービスを試行する。また北海道でのシステム監査ビジネスの普及に向けての調査を行う

(4) 広報

支部活動について対外的な広報、および支部員勧誘を行う。

対外的な広報に関しては、協会のホームページの北海道支部のコーナーを充実させる

(5) メーリング・リストによる連絡

支部メーリング・リストにより、支部員間の連絡および情報交換を行う

5. 1. 2. 支部体制

- 支部長 : 宮崎雅年 (新任)
- 副支部長 : 小林弘幸、菊地 圭 (新任)
- 会計 : 谷口泰正
- 監事 : 小柳政行
- 研究会担当 : 菊地 圭
- OML担当 : 渡部洋子
- 広報担当 : 曾根本 育裕

5. 2. 東北支部・計画

>目次

5. 2. 1. 本年度の目標

(1) 月例研究会及び役員会

- ・ 定例会を2ヶ月に1回程度、交流会を1～2回程度開催する。
- ・ 毎回、会員による活動事例発表を講演する。
- ・ 定例会の開催場所は仙台市の他、各県での開催を検討しつつ運営する。
2/8 (土)、4/12 (土)、6/21 (土)、8/23 (土)、10/4 (土)
- ・ 次年度の総会開催に関する役員会を開催する。 11/7 (金)

(2) 広報活動

- ・ 各県のITコーディネータ組織、日本ITストラテジスト協会東北支部との連携を図り、当協会、東北支部の広報宣伝活動を強化する。
- ・ 協会ホームページの支部便りを活用し、特に、東北支部地域へのシステム監査に関する情報の発信を行う。
- ・ 協会本部と連携し、入会勧誘の宣伝をする。

(3) 会員増強

- ・ 情報処理試験(システム監査技術者)合格者などを対象に会員加入を推進する。

(4) システム監査普及サービスの実施

- ・ 今年度は、更に会員がシステム監査を体験できるように、システム監査普及サービス対象企業を募り、事例研究会と共同開催を目指す。

5. 2. 2. 支部体制

- 支部長 : 横倉 正教
- 副支部長 : 高橋 壮太
- 会計 : 高橋 壮太、佐藤 雅英
- 研究会 : 小野寺 司、小野寺 学
- 広報 : 櫻谷 昭慶、館田 あゆみ
- 監事 : 成田 由加里
- 顧問 : 鈴木 実

5. 3. 北信越支部・計画

>目次

5. 3. 1. 本年度の目標

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指す。

- (1) 研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上
 - ・システム監査研究
 - ・情報セキュリティ監査研究
- (2) 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上
 - ・研究会ビデオの貸出し運営
- (3) プレゼンテーション能力の向上
- (4) インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上

5. 3. 2. 活動計画

- ・3月15日 年度支部総会（富山）
- ・6月14日 福井県例会
- ・9月6日 長野県例会
- ・12月6日 石川県例会

※各研究報告を 支部総会、各県例会にて実施予定.

5. 3. 3. 支部体制

- 支部長 : 宮本茂明（石川）
- 副支部長 : 梶川明美（富山）、角屋典一（福井）
- 会計 : 坂井敏之（富山）、情報統括：清水尚志（石川）
- 顧問 : 伊藤祐太郎（富山）、森広志（富山）
- 県部会長 : 小嶋潔（福井）、木村武志（石川）、國谷吉英（富山）、
風間一人（新潟）、藤原康弘（長野）
- 書記 : 尾島純子（富山）
- 監事 : 高瀬清春（富山）

5. 4. 中部支部・計画

>目次

5. 4. 1. 活動方針

- (1) 中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。
(会員の担当事業又は研究などの日頃行っている業務をテーマに課題などを共有化し会員でのディスカッションを通して課題解決への方向性や気付きの場所を提供する。)
- (2) 中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開していく。
- (3) システム監査実践セミナーの自主企画にむけ検討を進める。

5. 4. 2. 支部体制

- 支部長 : 大友 俊夫（新任）
- 副支部長 : 澤田 裕也（留任）

- 会計担当 : 安井 秀樹 (留任)
- 会計監査 : 早川 晃由 (留任)
- 監事 : 栗山 孝祐 (新任)
- 顧問 : 田中 勝弘(本部研究会ビデオ管理担当)
- 担当役員 : 石井(研究開発担当)、原(国際取引研究・国際交流)、
堤(デジタルコンテンツ担当)

5. 4. 3. 活動内容(予定)

- (1) 例会 : (奇数月(1月、3月、5月、7月、9月)の土曜日)
- (2) 合宿(11月頃)(日本ITストラテジスト協会中部支部と共同開催を検討)
土曜日午後から日曜日の午前中、テーマ;未定
- (3) その他
 - ・西日本支部合同研究会(近畿支部主催予定)への参画
 - ・メーリング・リスト等を通じた会員の相互交流、情報提供
 - ・海外IT事情調査など研修会の実施
 - ・その他

5. 5. 近畿支部・計画

>目次

5. 5. 1. 活動方針

- (1) 定例研究会・システム監査勉強会を基本として、研究プロジェクト・グループ活動を通じて実践的な研鑽活動を行い、更に支部活動を充実させる。
- (2) 本部の会員増加プロジェクトの活動に連動して、支部会員の増強に努める。
- (3) 2013年度は従来の研究会を「研究プロジェクト(略称:研究PJ)」に変更し、ワーキンググループ(WG)の名称も、ITサービスグループおよびセミナーグループに変更して活動を開始した。
- (4) 2014年度は、これらに加え、「教育サービスグループ」を設置する。「教育サービスグループ」は支部活動を支える定例研究会及びシステム監査勉強会の運営を担当し、「ITサービスグループ」とともに支部活動の両輪をなすものとして位置づける。
- (5) 支部体制強化のため、支部担当役員及びサポーターの数を増やし、支部活動の更なる活性化と支部の運営全般における負荷分散をはかる。

5. 5. 2. 支部体制

- (1) 支部役員
 - 理事(支部長) 林裕正(再任)
 - 理事(副支部長・会計/ITサービスグループ) 是松徹(再任)
 - 理事(副支部長、BCP研究PJ/教育サービスグループ) 荒町弘(再任)
 - 担当役員(ソフトウェア著作権研究PJ) 荒牧裕一(新任)
 - 担当役員(システム監査法制化研究PJ) 田淵隆明(再任)
 - 担当役員(システム監査法制化研究PJ) 神尾博(新任)
 - 担当役員(BCP研究プロジェクト) 松井秀雄(新任)
 - 担当役員(セミナーグループ) 広瀬克之(再任)
 - 担当役員(セミナーグループ) 三橋潤(新任)
 - 担当役員(ITサービスグループ) 下田あずさ(新任)
 - 担当役員(教育サービスグループ) 小河裕一(新任)
 - 担当役員(教育サービスグループ) 松本拓也(新任)
 - 担当役員(教育サービスグループ) 鬼松嵩(新任)
 - 監事 福德泰司(再任)
- (2) 支部参与

安本哲之助（再任）、吉田博一（再任：ソフトウェア著作権研究PJ）

(3) サポーター

吉谷尚雄、神尾博、金子力造、松浦康弘（3名再任）

福本洋一、雑賀務、大塚一志、川端純一、尾浦俊行、和田好文、岩佐修二、浜田恒彰、
中田和男、横山雅義（10名新任） 計13名（順不同）のサポーター各位の協力を得て、
支部活動を行う。

5. 5. 3. 定例研究会

(1) 内容 当協会会員を中心とした講師により講演会形式の研究会を開催する。

(2) 開催時期 奇数月の第3金曜日、及び12月に開催する。（計7回の予定）

(3) 西日本支部合同研究会については、近畿支部主催となる。

5. 5. 4. システム監査勉強会

(1) 内容 協会本部主催の月例研究会のDVDの視聴による勉強会を実施する。

(2) 開催時期 12月を除く偶数月の第3土曜日に開催する。（計5回の予定）

5. 5. 5. システム監査セミナーの実施

(1) システム監査体験セミナー（入門編）

一日コースのシステム監査の体験研修を行う。

(2) システム監査体験セミナー（実践編）

二日間のシステム監査の実践編コースを実施する。2014年度は教材を刷新し、本部事例研究会が作成したg社のテキストを用いてのセミナーを開催する予定。

(3) システム監査事例セミナー（セミナー名称は未定）

会員が持つ実際の監査経験を4つのテーマに分け、講演を実施する。

5. 5. 6. 研究プロジェクト・グループ活動

(1) ソフトウェア著作権研究プロジェクト

・主査：荒牧裕一 副主査：吉田博一

【プロジェクト目標】

- ・システム監査対象としてのソフトウェア著作権のポイントの整理
- ・ソフトウェア著作権に関する実務上の問題点の整理

【プロジェクト成果品（2014年度）】

- ・講演：年1回以上目標
- ・「システム監査チェックリスト（ソフトウェア著作権）（完成版）」
- ・「システム監査チェックリスト（その他知的財産権）（仮）」

ソフトウェア著作権以外の分野の知的財産権について、監査上重要となるポイントについて表形式にまとめる。

(2) システム監査法制化研究プロジェクト

・主査：田淵隆明 副主査：神尾博

【プロジェクト目標】

- ・システム監査法制化のロビー活動
- ・システム監査法制化以外のIT政策の研究・提言・発信

【プロジェクト成果品（2014年度）】

- ・講演：年1回以上目標
- ・論文：年1本以上目標
- ・本部会報投稿：コラム（A4*2枚程度）を年3本以上目標
- ・ロビー活動報告書：年1本以上目標（活動自体は業界団体等に年3回以上目標）

(3) BCP研究プロジェクト

・主査：荒町弘 副主査：松井秀雄

【プロジェクト目標】

- ・企業におけるBCP策定にあたっての課題等についてシステム監査人として検討する

- ・ I T - B C Pに関する監査基準・ポイントを整理し作成する。

【プロジェクト成果品（2014年度）】

- ・ 講演：年1回以上目標
- ・ 論文：年1本以上目標
- ・ セミナー開催：B C P体験セミナー
- ・ 本部会報投稿：コラム（A4*2枚程度）を年1本以上目標

(4) セミナーグループ

- ・ 主査：広瀬克之 副主査：三橋潤

【プロジェクト目標】

- ・ セミナーを通して、システム監査に関心がある方々および実際に企業内で関与されている方々に、システム監査の知識や体験を修得いただくことを目的とする。
- ・ 参加者の目標は、1セミナー16名とする。
- ・ 現在の①体験セミナー（入門編）、②体験セミナー（実践編）、③事例セミナーという構成に対し、枠組みや内容の見直しも検討・実施する。

【プロジェクト成果品（2014年度）】

- ・ 計画表（W B S）
- ・ 役割分担
- ・ セミナー教材
- ・ 協会誌掲載のセミナー実施結果

(5) I Tサービスグループ

- ・ 主査：是松徹 副主査：下田あずさ

【プロジェクト目標】

- ・ 近畿支部の諸活動の可視化と活性化支援を目的とする。
- ・ 具体的には、Webサイト（<http://www.saa.jk.org/>）とMLの安定運用、サイト（コンテンツ）の充実、メールマガジンの発行を行う。

【プロジェクト成果品（2014年度）】

- ・ Webサイト、MLの安定運用（新たな脅威への対応）
- ・ コンテンツの充実（会員紹介、研究論文・報告書等の会員の成果物の掲載。さらに認知度向上、システム監査普及につながるコンテンツの検討）
- ・ メールマガジンの発行（隔月）
- ・ 本部会報投稿：コラム（A4*2枚程度）1本以上
- ・ さらなるサイトの運用ルール、ガイドラインの整備

(6) 教育サービスグループ

- ・ 主査：荒町弘 副主査：小河裕一、松本拓也、鬼松嵩

【プロジェクト目標】

- ・ 近畿支部会員を中心としたシステム監査人の方々に、システム監査に関連する教育サービスを提供し、システム監査人の知見やスキルの向上に寄与することを目的とする。
- ・ 教育サービスの提供に当たり、講師手配、当日受付、情報交換会開催等の円滑な運営に留意する。

【プロジェクト成果品（2014年度）】

- ・ 定例研究会：年7回開催
- ・ システム監査勉強会：年5回開催

5. 5. 7. 西日本支部合同研究会の開催

2014年度の西日本合同研究会は近畿支部が担当となるため、2日間の研究会タイムスケジュール及び関西エリアでのITシステム視察等のプログラムを策定し研究会を開催する。開催にあたっては、統一テーマを設定し、西日本の各支部から発表コンテンツや論文等を募集する。また、実行委員を募

り、実行委員を中心として研究会の準備から開催までの一連の活動を行う。実施時期は第4四半期中（10月か11月）を予定。

5. 6. 中四国支部・計画

>目次

5. 6. 1 活動方針

- (1) 中四国支部会員及び公認システム監査人の継続的な研鑽と情報交換の場を提供する。
- (2) 中四国地域で唯一のシステム監査人の団体として、システム監査に関する窓口組織となるべく広報活動等によりシステム監査の普及に努める。

5. 6. 2 活動計画

- (1) 例会の開催
 - ・月例研究会のビデオ視聴
 - ・その他、情報交換
- (2) 他支部、他団体との連携
 - ・地域の諸団体との共催によるセミナー開催

5. 6. 3 役員体制

- 支部長 : 廣末浩之
- 副支部長 : 田川 誠、佐藤康之(岡山)、錦織 隆(島根)
- 会計 : 福原博明
- 監事 : 本多美和子
- 顧問 : 大谷完次

5. 7. 九州支部・計画

>目次

5. 7. 1. 活動計画

- (1) 月例会の開催 原則月1回の月例会を継続する。
外部講師による講演を企画する。必要に応じ参加費を徴収する。
- (2) イベント企画・推進
 - 1) イベント企画
 - ・支部主催 イベント
開催するイベントは目的明確にして、支部活動(目標・戦略)に即したものとする。
 - 2) テーマ活動
 - ・ 研究活動 (支部会員のシステム監査の技術水準向上)
 - － システムリスクの研究
 - － 協会講座の利活用
 - ・ 普及活動 (支部におけるシステム監査の普及)
 - － システム監査の重要性・価値向上のアピール
 - － 会員募集チラシ配布(春期情報処理技術者試験会場)
 - ・ 営業活動 (支部会員のシステム監査ビジネスの拡大)
 - － システム監査人(資格)の有効性・信頼性を発揮
 - － システム監査ビジネスの潜在ニーズの発掘
- (3) 他支部、他団体との合同企画・開催。
他支部との親交を深め、会員の活動活性化を促進する狙いで、他支部と研修合宿などを開催する。
- (4) 他団体との合同セミナー、外部向けセミナー等の企画・開催。
 - ・ システム監査学会(JSSA)やISACA福岡支部と連携してシステム監査の啓発を推進する。
 - ・ 福岡ITC推進協議会ははじめ九州各県のITC組織、日本ITストラテジスト協会 九州支部等の関連団体とのイベント共催を推進する。

(5) 関連他団体との連携、情報発信の活発化

- ・関連団体主催のイベントへの後援などを通じ連携を深めるとともに、当協会の紹介などを活発に行う。

(6) 協会ホームページ・メーリングリストによる情報・意見交換の一層の活発化

(7) 支部会員の維持・拡大

- ・支部の求心力を向上する。

5. 7. 2. 役員体制

- 支部長 : 中溝統明
- 副支部長 : 船津 宏 荒添美穂
- 会計 : 居倉圭司
- 監査 : 松嶋 敦
- 事務局 : 福田啓二
- 地区担当 : 長崎 平山克己
熊本 桐原光洋
大分 梶屋博史
鹿児島 山下博美

3 2014年度予算(案)

>目次

2014年度 特定非営利活動に係る事業会計 事業予算科目案

2014年1月1日から2014年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第13期

(単位:円)

科 目	予 算 (細目)		備考
I 収入の部			
1 入会金・会費収入	8,700,000		
入会金収入		100,000	
会費収入		8,600,000	
2 事業収入	11,660,000		
普及・啓発、広報事業		0	
研究・研修事業		6,360,000	月例会、セミナー、研究会等
認定事業		5,300,000	認定料、登録料、更新料
3 寄付金収入	300,000		
4 その他収入	1,050,000		
支部収入		2,106,000	支部研修会収入等
雑収入		△ 1,056,000	本部助成金
雑収入		0	受取利息等
当期収入合計(A)	21,710,000		
II 支出の部			
1 事業費	12,112,000		
普及・啓発、広報事業費		3,645,000	会報、パンフ、ホームページ等
研究・研修事業費		6,852,000	各研究会、セミナー講師料等
認定事業費		1,615,000	認定員手当、認定証作成費
2 管理費	8,532,000		
通信費		90,000	
旅費交通費		500,000	
消耗品費		165,000	
会議費		280,000	
事務局手当		2,800,000	
事務所運営費		1,645,000	
ハード・ソフト費用		335,000	
支部経費・運営費		2,433,000	
雑費		284,000	
3 減価償却費	400,000		
当期支出合計(B)	21,044,000		
当期収支差額(A) - (B)	666,000		

第13期役員候補

	役員	氏名	備考
本部	1 会長	仲 厚吉	2014/1/1就任
	2 副会長・事務局長	斎藤 由紀子	2014/1/1就任
	3 副会長	安部 晃生	2014/1/1就任
	4 副会長	小野 修一	
	5 副会長	力 利則	
	6 副会長	中山 孝明	
	7 副会長	松枝 憲司	
	8 副会長	三谷 慶一郎	
	9 理事	梅里 悦康	
	10 理事	遠藤 誠	
	11 理事	大石 正人	
	12 理事	大西 智	新任理事
	13 理事	久保木 孝明	
	14 理事	向後雅代	新任理事
	15 理事	越野 雅晴	
	16 理事	斎藤 茂雄	
	17 理事	桜井 由美子	
	18 理事	佐々野 未知	新任理事
	19 理事	清水 恵子	
	20 理事	鈴木 信夫	
	21 理事	鈴木 実	
	22 理事	高橋 典子	
	23 理事	舘岡 均	
	24 理事	西宮 恵子	
	25 理事	馬場 孝悦	
	26 理事	原 純江	
	27 理事	藤澤 博	
	28 理事	藤野 明夫	
	29 理事	松尾 正行	
	30 理事	三輪 智哉	
北海道	31 理事・支部長	宮崎雅年	新任理事
東北	32 理事・支部長	横倉正教	新任理事
北信越	33 理事・支部長	宮本 茂明	
中部	34 理事・支部長	大友 俊夫	
	35 理事	澤田裕也	新任理事
近畿	36 理事・支部長	林 裕正	
	37 理事	是松 徹	
	38 理事	荒町 弘	
中四国	39 理事・支部長	廣末浩之	新任理事
九州	40 理事・支部長	中溝 統明	
	41 監事	金子 長男	
	42 監事	木村裕一	新任監事

以上 ■